

北海道地理

総索引

No. 1—75

(1951—2001)

- | | |
|--------|----|
| 1. 号数別 | 1 |
| 2. 著者別 | 19 |
| 3. 事項別 | 32 |

北海道地理学会

号 年 对照表

1 ~11・12号	1951年	54号	1980年
13~17号	1952年	55号	1981年
18号	1953年	56号	1982年
19~26号	1954年	57号	1983年
27号	1958年	58号	1984年
28, 29, 30号	1959年	59号	1985年
31・32号	1960年	60号	1986年
33, 34号	1961年	61号	1987年
35号	1963年	62号	1988年
36, 37号	1965年	63号	1989年
38号	1966年	64号	1990年
39号	1967年	65号	1991年
40, 41号	1968年	66号	1992年
42, 43号	1969年	67号	1993年
44, 45号	1970年	68号	1994年
46号	1971年	69号	1995年
47号	1972年	70号	1996年
48号	1973年	71号	1997年
49号	1974年	72号	1998年
50号	1976年	73号	1999年
51号	1977年	74号	2000年
52号	1978年	75号	2001年
53号	1979年		

例　　言

1) 本索引は北海道地理の1~75号までの論文、講演要旨、紙碑、報告、研究ノート、紀行などを、号別、著者別、事項別に収録したものである。ただし、1~29号までは「会報」として発行していたものである。

2) 事項の種類は以下のとおりである。

- | | |
|-----------|------------|
| ・地図学 | ・人口 |
| ・地形 | ・集落および都市 |
| ・気候 | ・商業・流通・交通 |
| ・災害・公害 | ・地域開発 |
| ・その他の自然地理 | ・文化地理・地理教育 |
| ・地誌 | ・観光 |
| ・農林水産業 | ・環境 |
| ・鉱工業 | ・紀行・その他 |

号別索引

題	目	著者名	頁
1号 1951年			
フロンティアとしての北海道と米国（要旨）		田中秀作	3-4
市街地と農村部落の人口増減 —美幌町の場合—		柏村一郎	4
2号 1951年			
安平台の耕作景観		森壽美衛	1-2
富士見爆裂火口		佐藤慶二	3-4
3号 1951年			
北海道関係地理学参考文献 —地理学評論, 地理雑誌, 地理学, 地理教育, 地質学雑誌, 科学—	森壽美衛	1-4	
4号 1951年			
総合開発計画について		山崎長吉	1-8
5号 1951年			
有珠昭和新山に就いて		佐藤慶二	1-4
6・7号 1951年			
洞爺湖温泉の紹介		大渕玄一	1-2
第3回例会 野幌方面見学旅行			3-4
南空知山地		森壽美衛	5-8
8号 1951年			
北海道風景の特色		森壽美衛	1-4
9・10号 1951年			
アスピラガスについての研究(第1報)		佐藤清美	1-2
地理学雑誌の展望			3
11・12号 1951年			
第2回総会並学術大会			
空中写真の地学における利用 (要旨)		佐々保雄	1-2
台湾の集落 (要旨)		富田芳郎	3-4
続十勝開拓地理 (要旨)		棚瀬善一	5
天北地方海岸原野の地形と土地利用 (要旨)		奈良部理	5-6
北海道農村社会構造 —集落地理学への社会学的アプローチ— (要旨)		東谷清次	6
石狩平野の開拓 (要旨)		井黒弥太郎	6-7
北海道の寒さと積雪 (要旨)		柄木義正	7-8
小樽市朝里川の段丘と扇状地 (要旨)		岡本次郎	8
五島の地形 (要旨)		森壽美衛	8

13号 1952年			
北海道の5万分1地形図	森	壽美衛	1-3
安平盆地 Excursion			4
恵庭方面 Excursion			5
14号 1952年			
門前町成田と池上の商店街（要旨）	沼田	武	1-2
新北海道 1951年版（紹介）			2
15号 1952年			
アスパラガスについての研究（第2報）	佐藤	清美	1-3
16号 1952年			
有珠湾の海苔養殖（概報）	沼田	武	1-2
夕張市の地勢	木村	司	3-5
17号 1952年			
北海道の屯田兵制度－沿革と土地制度－	内田	淳一	1-5
18号 1953年			
千歳町の地域性	森	壽美衛	1-4
19号 1954年			
羊蹄山付近の土地利用	佐藤	清美	1-6
20号 1954年			
札幌市大谷地原野の開拓－石狩平野の一サンプル－	井黒	弥太郎	1-8
21号 1954年			
夕張郷土新誌	亀田	一雄	1-4
丸山に就いて	佐藤	慶二	5-7
22号 1954年			
北海道の地名	森	壽美衛	1-5
23号 1954年			
月寒台地の農作物分布とその立地条件	山川	勉	1-10
24号 1954年			
支笏洞爺国立公園	森	壽美衛	1-18
25号 1954年			
雨竜沼	藤波	孝成	1-3
26号 1954年			
牛の地理	千田	浩史	1-9

27号 1958年

天塩の開拓（要旨）	井 黒 弥太郎	1-2
苫小牧市の地域性	沼 田 武	3
岡山県における酪農の史的展開	光 岡 浩 二	3
夕張市の土地利用景観	森 壽美衛	3-4

28号 1959年

児島湾の開拓（要旨）	奈良部 理	1-2
米作限界地の土地利用 -美深町における水田の畠地還元について-（要旨）	岡 本 次 郎	3
豊平川沿岸ミスマイ地域の調査	柏 村 一 郎	3-4

29号 1959年

北海道の気候変化	奈良部 理	1-2
地理学習指導の中心的问题点 -略図中心の授業展開-	榎 本 昌 一	2-4

30号 1959年10月

知床半島調査の概報	柏 村 一 郎	1-4
美深町水田の畠地還元について（第2報）	岡 本 次 郎	5-7
会報		

31・32号 1960年 9月

上川盆地の地形面区分の予想	若 生 達 夫	1-2
北海道の雨龍沼湿原	藤 波 孝 成	3-4
水産都市としての根室の性格	伊 藤 久 雄	5-12
上川水田の発展における屯田兵制度の意義	岡 本 次 郎	12-13
会報		

33号 1961年 6月

論文		
根室地方の水産業	伊 藤 久 雄	1-7
報告		
日本地理学会1961年度春季大会報告	柏 村 一 郎	8
日本地理学会1961年度春季大会報告	野 川 潔	9
会報		

34号 1961年12月

北海道東部海岸地域の地形学的研究 -第1報、根室半島の地形-	野 川 潔	1-9
北海道における天気の変動	斎 藤 博 英	10
会報		

35号 1963年 3月

北海道離島漁村の地理学的研究 -第1報-	伊 藤 久 雄	1-4
北海道における商業圏について	恩 田 德 生	5-10

36号 1965年 3月

新産業都市建設をめぐる道央地域の開発問題	恩 田 德 生	1-6
開拓農業の一考察 -千歳市域を中心として-	正 田 武	7-10

北海道の中小炭鉱合理化について
漁業収穫とその地理的基盤
会報

藤島範孝 11-19

渡辺英郎 20-25

37号 1965年11月

高校地理における統計学習について
漁業経営の転換に関する地理学的研究
士別屯田兵村について
根室半島における二、三の気候地形
会報

大森好男 1-5

渡辺英郎 6-15

山本博信 16-25

野川潔 26-30

38号 1966年8月

札幌地理研究会の歩み 一大正13年より昭和16年までー^一
空知地方の農地利用の変化
テレビ教材を利用した地理の学習指導
会報

沢田準一 1-4

宮崎芳男

山本慶太郎

柏村一郎 5-9

塩見一夫 10-22

塚本謙藏

渡辺英郎

会報

39号 1967年5月

満州における交通拠点地名について
右左府盆地の段丘地形と堆積物
十勝地方における農業協業経営の地理学的考察
会報

小川博三 1-7

伊藤久雄 8-12

武石文人 13-22

40号 1968年3月

北海道沿岸の風成砂の粒度組成について
アングロアメリカにおける交通拠点地名について
根釧パイロットファームの現況
会報

小杉健三 1-10

小川博三 11-23

武石文人 24-30

41号 1968年10月

昭和初年における国後・択捉島及び色丹島の水産業
コロラド州東北部における甜菜栽培
十勝沖地震津波の宮城県中部海岸への影響
資料
近郊地域をどうとらえるか ー伊達を中心としてー^一
市街地発展に関する考察 ー札幌市北光地区ー^一
会報

伊藤久雄 1-8

古川史郎 9-15

山下克彦 16-19

信岡貢 20-26

安田高明 27-32

塩見一夫

42号 1969年6月

北海道農牧業地域の分類
北海道の離島漁村 厚岸小島
会報

神山健 1-11

伊藤久雄 12-16

43号 1969年10月

論文

北海道における農村立地工業の産地形成に及ぼした影響について -アスパラガス-
 中小都市における中心商店街の変移 -岩見沢市におけるRetail Shopを例として-
 短報

奥尻島の漁村

1969年春季大会報告要旨

農産缶詰資本と契約農民との対応

中小都市における中心商店街の変移について -岩見沢市を例として-

交通事故分布の地域性

山村占冠の開拓と交通路

石狩川中下流域における集落立地について

スペイン集落の諸形態について

北海道鳥瞰（I）

学会関係

進藤 賢一	1-8
藤島範孝	9-14
伊藤 久雄	15-19
進藤 賢一	20
藤島範孝	20-21
村田 博	21
伊藤 久雄	21-22
内田 実	22-23
小川 博三	23
佐々保 雄	23-24

44号 1970年 3月

1969年秋季大会シンポジウム：地方都市をめぐる地理学的諸問題

千歳川の特質と開発への課題 -道央メガロポリスにおける市の分担すべき機能を中心として-

栗山町における工業立地の諸問題

苫小牧市と工業港

岩瀬 正人	1
土屋 貢	2-5
帰山 次正	5-7
木村 浩	
折笠 義之	
恩田 徳生	7-9
	10-11

地方都市としての滝川

シンポジウム「地方都市をめぐる地理学的諸問題について」総括

自由研究

北海道酪農の発展過程

苫小牧港の近況

学会関係

内田 実	12
高平順夫	12-13

45号 1970年 9月

論文

北海道における水産加工業地の発展段階による区分

千葉県酪農と安房の酪農構造

1970年度春季大会報告要旨

石狩町における漁村の現状

札幌市における晴天率資料

群馬県大間閣扇状地の地下水について

日本海岸線鳥瞰

学会関係

会員名簿

渡辺 英郎	1-6
内田 実	7-13

千田 浩史	14
沼田 武	14
阿由葉 元	15
佐々保 雄	16

46号 1971年 6月

論文

北海道の地名分類（1） -和名について-

野幌屯田兵村地域の変容 -札幌としての住宅地化-

1970年度秋季大会シンポジウム：港湾都市を中心とする地理学的諸問題

藤島範孝	1-7
伊藤 久雄	8

港湾都市を中心とする地理学的諸問題	奥 平 忠 志	14
港湾都市についての若干の問題 ーいわき市を例としてー	奥 平 忠 志	15
釧路港の現状と課題	山 崎 幹 雄	15-18
今後の釧路市の都市計画について	小笠原 政 一	19
シンポジウム「港湾都市を中心とする地理学的諸問題」総括 自由研究		20-22
富良野盆地の酪農について	内 田 実	23
北海道の地名と地形の関連について	藤 島 範 孝	24-25
学会関係		

47号 1972年12月

論文		
北海道における農地移動の研究(Ⅰ)	進 藤 賢 一	1-8
美唄を中心とした米の作付調整	柏 村 一 郎	9-12
冷凍業発展の地域的要因	渡 辺 英 郎	13-21
戦前における道南いか釣業の発展形態	丹 治 輝 一	22-29
野幌の窯業	伊 藤 久 雄	30-34
北海道における周氷河地形の研究(Ⅰ)	小 杉 健 三	35-40
札幌市における冬季間の気温分布についての一考察	粟 井 秀 和	41-44

48号 1973年12月

論文		
日本の第四紀火山の地形発達史	守 屋 以智雄	1-7
北海道の地名分類(5) ー海岸周辺地名ー	藤 島 範 孝	8-18
北海道における特殊農産物の生産と流通	今 井 敏 信	19-25
北海道のインテグレーション問題	進 藤 賢 一	26-40
研究ノート		
過疎地域研究の一視点	山 下 克 彦	41-44

49号 1974年12月

論文		
北海道熊石町・大成町付近の海岸段丘とその ¹⁴ C年代	瀬 川 秀 良	1-6
胆振東部海岸地域の稻作(Ⅰ) ー鶴川町を事例としてー	山 本 博 信	7-11
士別市付近の地形と土地利用	小 杉 健 三	12-18
地理教育関係		
北海道高校の地理教育研究会の動き	沼 田 武	19-21
高校地理Bの隘路	関 口 淩	22-26
中学校における読図指導 ーとくに大縮尺の地形図についてー	尾 崎 功	27-28
会報		
紙碑		

50号 1976年 1月

論文		
行政区画と広域圈計画との関連について	山 下 克 彦	1-7
道北地方における炭田の開発	小 杉 健 三	8-15
十勝農業における法人化問題	横 平 弘	
	進 藤 賢 一	16-21

都市的土地利用と地価の関係について -函館と苫小牧の場合-	奥 平 忠 志	22-26
地理教育		
中学校における地図指導の実践	尾 崎 功	27-36
海外紀行		
東南アジアの印象	柏 村 一 郎	37-39
会報		

51号 1977年 1月

論文		
道央地域における宅地造成の研究	山 下 克 彦	1-7
北十勝瓜幕扇状地の形成過程	浜 本 武 司	8-12
日高地方における軽種馬の生産構造	進 藤 賢 一	13-19
青函トンネル工事による地域変化 -北海道福島町-	渡 辺 英 郎	20-25
北海道における国内炭開発可能性調査の概要と今後の炭田開発	横 平 弘	26-33
農業技術革新の普及規定要因に関する正準相関分析 一大正期蘭, 一代交雑種の事例-	土 井 時 久	34-37

52号 1978年 1月

論文		
北海道日高地方沿岸東部の段丘形成史	大 内 定	1-8
羊蹄山山麓の陥没孔	大 場 与志男	9-14
 石狩高岡台地における土地利用とその変化	守 屋 以智雄	
北後志の果樹生産と流通について	羽 田 野 正 隆	15-20
北海道における地下水の研究史	谷 内 達	
最近の炭田開発調査について	進 藤 賢 一	21-30
カリフォルニアの稻作農業	鳥 居 栄一郎	31-34
研究ノート	横 平 弘	35-40
北海道の人口増加をめぐる国際比較	内 田 実	41-49
北海道庁の地形図に関する資料	 谷 内 達	50-53
北海道20万分の1土地分類図について	羽 田 野 正 隆	54-56
紙碑	野 川 潔	57-58
会報		

53号 1979年 1月

論文		
北海道における交通圈の推移と都市システムの形成, 1887年~1935年	谷 内 達	1-6
札幌市における人口密度分布とその変化	東 廉	7-13
帯広市を中心とした人口移動の分析 一グラビィ・モデルの適用をめぐって-	羽 田 野 正 隆	14-18
戦前の苫小牧における港湾計画の変遷	山 下 克 彦	19-26
松浦武四郎の石狩川調査	小 林 和 夫	27-39
New Zealand 南島 Canterbury 平野の地形について	今 井 敏 信	40-46
オーストラリアの首都キャンベラの都市化	奥 平 忠 志	47-53
研究ノート	横 平 弘	54-59
北海道における埋蔵炭量調査について		
会報		

54号 1980年 1月

論文

軽種馬産地帯の農業経営と土地利用の変化－減速経済への移行期を中心に浦河、静内を事例として－ 進藤 賢一 1-14

北海道石炭鉱業の現状と課題 横平 弘 15-23

チャシの分布に対するチャシ地名からの接近 小林 和夫 24-45

研究ノート 谷内 達 46-52

北海道の港湾分布における集中・分散、1888年～1935年 资料 山下 克彦 53-73

苦小牧地区開発史年表：1950～70 会報

会員名簿

55号 1981年 1月

論文 佐々保 雄 1-7

北海道と樺太との地学的関連－その1－ 鳥居 栄一郎 8-16

天北地域の地質構造について 小松 原尚 17-23

ジャージー牛地域の現状と課題－山高原・川上村の事例分析－ 研究ノート 藤島 範孝 24-27

稚内市経済社会長期計画の概要 地理教育 田村 正郎 28

地形指導と資料図 沼田 武 29-34

紹介・書評 栄木 義正 35-36

「北海道地名索引」について 特別寄稿 浜森 辰雄 37

稚内市の現況と将来 会報

56号 1982年 6月

論文 小野寺 弘道 1-6

昭和56年8月豪雨による日高地方の崖崩れの災害について 今井 敏信 7-15

北海道浦河町における農業的土地利用の変化－1971～1981－ 大脇 演幸

零細生産力地帯の農業実態－洞爺村を事例として－ 進藤 賢一 16-26

産繭拡大に伴う栽桑技術進歩の地域性 土井 時久 27-32

英國ダーナム州における土地利用－その定量的解析について－ 氷見山 幸夫 33-39

研究ノート 里見 清孝 40-42

「農業集落カード」による北海道の農業集落の類型分析 文仙 敏宏

「全国市町村別農業データ」による農業地域の分析 若井 旭人 43-46

川田 一之 資料

A Colonial Land Division Plan in Hokkaido HATANO, M. 47-49

外国の百科事典における北海道の記述 谷内 達 50-53

海外紀行

雲南省紀行－シーサンパンナと少数民族－ 山下 克彦 54-60

会報

57号 1983年 6月

論文

北海道内2万5千分の1土地利用図の解析(第1報)

交通網構造の地域差に関する一考察

200カイリ漁業規制と北海道の水産加工業

北海道における神社の分布について

研究ノート

根釧地域におけるジャージー牛飼養の事例分析

展望

地理学における電算機利用の展望

会報

氷見山 幸夫 1-7

奥井 正俊 8-12

渡辺 英郎 13-19

永幡 豊 20-25

小松原 尚 26-32

岡本次郎 33-35

58号 1984年 3月

論文

北海道における農業公共投資の地域的配分について

北海道におけるオホーツク海高気圧影響下の気候について -'83年夏季の低温と冷害

北海道の機械工業の構造特性に関する一考察

北海道2万5千分の1土地利用図の解析(第2報)

山下克彦 1-8

藤井 享 9-15

原田 実 16-23

氷見山 幸夫 24-28

金光 保

藤弘 享

鈴木邦輝 30-34

天塩川流域のコタンの分布 -19世紀の文献資料から-

研究ノート

市町村別データと旧市町村別データによる作物結合型の対比 -東北地方を例として-

岡本次郎 35-37

大場 稔

竹森茂雄

岡本次郎 38-42

小川邦彦

松田聰

横平弘 43-47

48-50

「集落カード」の分析にあたっての問題点 -第二種兼業農家率を例として-

北海道石炭鉱業の動向と課題

1983年春季大会シンポジウム：北海道産業の諸問題

紙碑

会報

会員名簿

59号 1985年 3月

論文

亀田半島東岸中部の海岸段丘と麓層面

瀬川秀良 1-5

土地生産性向上のための輪作、土地づくり -富良野地区を事例として-

進藤賢一 6-17

公共投資と地域経済 -新酪農村建設事業を例として-

山下克彦 18-26

研究ノート

建物業種からみた薄野の地域構造

沼田武 27-31

コンブ生産変動の地域的パターン

渡辺英郎 32-34

海外紀行

北ドイツの差別侵食地形2景

堀淳一 35-43

解説

扇状地事始
会報
会則

斎藤享治 44-45

60号 1986年 4月

論文

- 日本の山地の発達と扇状地
アイスランパートと浜堤
研究ノート
牛肉流通の新しい局面 一大規模畜産基地、北海道ー
札幌市における中心商店街の構成(1)

斎藤享治 1-6
佐々木 異 7-13
進藤賢一 14-26
沼田 武 27-32

海外紀行

- 雨と古蹟のドラムリン ーイスランドの旅・抄ー

堀淳一 33-42

資料

- 道内におけるスクール・バス導入地域の特性
最近10年間の道内における機械四業種の立地動向

山下克彦 43-44
山下克彦 45-46

書評

- 橋爪 若子：オーストラリア入門
郷土と科学編集委員会：続北海道5万年史

岩崎一孝 47
大内 定 48

抄録

会報

61号 1987年 4月

論文

- インド・マラバル海岸カナラ地方の地形と表層地質
カナダにおける農業的土地利用の地域的変化

貞方昇 1-8
今井敏信 9-17

研究ノート

- アイヌ語地名「陸別」
社会科の総合性と地図の構成
知床国立公園内の100m²運動と国有林伐採計画について

横平弘 18-22
小松原尚 23-27
長谷川武 28-35
永幡豊

1986年春季大会シンポジウム「地理教育」：発表要旨、総合討論要旨

紹介・書評

- 札幌地理サークル編：ウォッキング札幌

柏村一郎 42

会報

会員名簿

62号 1988年 4月

論文

- 北海道における商圈構造
コタンとその立地
「身近な地域」の教材構成に関する研究

根田克彦 1-6
小林和夫 7-18
奥本繁 19-24

研究ノート

- 日本語地名「旭川」と「濁川」

横平弘 25-30

海外紀行

- 水上住居をたずねて ーイスランド・クラゴーノーウェン訪問記ー

堀淳一 31-36

紹介・書評

坂本 英夫：農業地理学	進 藤 賢一	37
角川地名大辞典編纂委員会編：北海道上・下巻	山 下 克彦	38
抄録		
会報		
会則		

63号 1989年 4月

論文

北海道北部風蓮・剣淵地域の段丘堆積物の¹⁴C年代と花粉資料

大丸 裕武 1-8

五十嵐 八枝子

中村 俊夫

平松 和彦

宮城 豊彦

斎藤 享治 9-16

渡辺 英郎 17-22

台灣島の山地の発達段階

北海道におけるうにの生産と流通

海外紀行

グレンコラムキル周遊記

堀 淳一 23-30

特集記事

書評

斎藤 享治：日本の扇状地

野川 潔 40

抄録

会報

会則

64号 1990年 4月

論文

カナダの Prairies における農業的土地利用について

今井 敏信 1-14

北海道のアナストモージング河道とその消失時期

米地 文夫 15-22

研究ノート

「利別川」と「両国橋」

横平 弘 23-28

道央圏における広島町の将来展望

石倉 大輔 29-36

海外紀行

南極紀行

下川 和夫 37-40

特別寄稿

Population Loss in Northern Japan: The Experience of Hokkaido in the 1980s

HUMPHRYS, G. 41-50

記念講演

Recent Changes in British School Geography

HUMPHRYS, G. 51-61

特集記事

書評

人類とエネルギー研究会編：地球環境と人間 - 環境の保全と成長の持続は可能か -

大内 定 62

紙碑

会報

65号 1991年 4月

論文

北海道農業の空間構造

内田 実 1-14

黒沢 恵美子

北海道浦河町における農業的土地利用の変化(3)

明治初期静内郡絵図に関する若干の考察

福岡市における卸売事業所の立地変動

研究ノート

鉄道廃止による紋別地域の影響と跡地利用対策

石狩浜における大地電気比抵抗探査

竹生	かおり	
辻本	ゆかり	
久末	洋子	
今井	敏信	15-26
大脇	演幸	
平井	松午	27-34
羽田野	正隆	
奥平	理	35-46
横平	弘	47-56
曾根	敏雄	57-58
高橋	伸幸	
北原	智之	

海外地誌

アラン諸島の自然と文化

書評

矢田俊文編著：地域構造の理論

紙碑

会報

黒沢 恵美子 59-67

小松原 尚 68

66号 1992年 4月

論文

Sediment Transport accompanied by the Shoreward Movement of Lake Ice

佐々木 異 1-6

最終氷期における数量的データからみたトマムの斜面堆積物の運搬営力の変化

山本 憲志郎 7-12

渡島半島南部の完新世火山灰層序 一とくに駒ヶ岳火山灰e層(Ko-e)の対比について—

花岡 正光 13-18

農業地域と過疎問題

小松原 尚 19-24

特別寄稿

Design Disadvatagement in Housing

COLEMAN, A. 25-32

書評

門村 浩・武内和彦・大森博雄・田村俊和：環境変動と地球砂漠化

岩崎 一孝 33

抄録

紙碑

会報

会員名簿

67号 1993年 4月

論文

農山村における「地域活性化」の現状と課題 —北海道羊蹄山麓地域を事例として—

小松原 尚 1-6

地価高騰とマンション建設 —函館の事例—

奥平 忠志 7-12

釧路港の拡大と後背地の拡大

酒井 多加志 13-18

新広島空港の開港に伴う現広島空港の存続問題

山本 耕三 19-26

北海道南部漁村における漁業仕込みの考察

渡辺 英郎 27-32

研究ノート

日高山脈北部における周氷河性斜面堆積物の性質と基盤岩質の関係についての予察的研究

山本 憲志郎 33-34

札幌近郊、定山渓周辺の山地における斜面の縦断面形と土層構造

山田 周二 35-38

西高東低気圧配置下の北海道の降水量分布(第1報)

岩崎 一孝 39-40

あいさつに関する調査からみたネパール人ポーターと外国人トレッカーの親しみやすさの違い 渡辺悌二 41-46
について

解説

国鉄改革で北海道鉄道事業はいかに変化したのか —改革5周年を迎えて—

武田 泉 47-56

資料

キロロリゾート開発の始動と2年目の課題

武田 泉 57-60

紙碑

会報

68号 1994年 4月

論文

北海道における相対的土地生産性について

今井 敏信 1-6

韓国ソウルの都市交通の特性

酒井 多加志 7-14

研究ノート

山地小流域河川における河川床堆積物表面微粒構造の経時変化

倉茂 好匡 15-20

北海道における1993年夏季の低温と冷害について

藤井 享 21-28

エコツーリズムの概念とその応用 —公共交通優先政策との関連を視座に入れて—

武田 泉 29-34

登別温泉の形成過程と集落構造

割石 敏昭 35-40

中学校における選択履修の幅の拡大に対応する指導の在り方

酒井 多加志 41-46

「地理B」指導方法の考察

飯田 精一 47-54

巡査報告

石狩川中・下流域における農村の変化

大内 定 55-57

進藤 賢一

山下 克彦

会報

会則

69号 1995年 4月

論文

「気温図表」からみた日本列島の特性 —その1—

羽田野 正隆 1-12

わが国における支店の集積 —都道府県および県庁所在都市の分析—

岩崎 一孝

寺谷 亮司 13-20

地理情報システム(GIS)の特徴とその活用 —主題図作成メニューの紹介を通して—

中村 康子 21-38

地理情報システムによる気候データの解析 —北海道積雪深データを例として—

岩崎 一孝 39-48

凍土の融解期における大雪山白雲岳火口湖の消滅

橋本 雄一

高橋 伸幸 49-56

研究ノート

学校教育における野外活動の現状と環境教育の理念 —北海道と青森県の事例—

武田 泉 57-66

後藤 忠志

巡査報告

苫小牧地域の自然と産業の変容

山下 克彦 67-71

進藤 賢一

大内 定

岩崎 一孝

書評

佐藤 正之著：北紀行 —変わる北海道の街と経済—

小松原 尚 72

会報
会則

70号 1996年 4月

論文

日本における花き栽培の現状と類型区分

寺田 稔 1-12

研究ノート

北海道における食品工業の成立要因 —明治期における官営工場の立地を手がかりに—

菊地 達夫 13-20

展望

韓国における観光地理学研究の動向

北田 晃司 21-26

解説

北部九州における新空港建設問題 —九州国際空港構想と新福岡空港構想を巡って—

山本 耕三 27-36

紹介

「豊浜トンネル」崩落事故現場を観る

木村 栄ノ進 37-42

特別寄稿

「砂漠の開発と砂漠化」

GRADUS, Y. 43-50

巡査報告

鶏川および沙流川の中・下流域における自然と産業

進藤 賢一 51-58

大内 定

菊地 正義

山内 正明

会報

会則

会員名簿

71号 1997年 4月

論文

ネパールへの肥料援助とカトマンズ盆地における農業の変化

土井 時久 1-12

近藤 巧

長南 史男

横尾 実 13-22

八戸の都市地域の形成様式

肖平(XIAO, Ping) 23-32

The Cultivated Land Change and its Impacts on Grain Production in China

研究ノート

本州との比較からみた北海道のレクリエーションスキーの特色とその地域性

菊地 達夫 33-42

ニュータウン開発による混住化の特性 —佐倉市ユーカリが丘を事例にして—

高橋 徹 43-54

紀行

ワールドロペットと地理学徒

進藤 賢一 55-60

紹介

生徒の実地調査による都市研究2例

渡辺 英郎 61-64

書評

元木 靖著：現代日本の水田開発 —開発地理学的手法の展開—

岡本 次郎 65-68

1996年度春季大会報告要旨

ネパール・カトマンズ盆地農業の変化

土井 時久 69

1930年代以降の中国東北部の土地利用変化概況

水見山 幸夫 69

アラスカ州ハーディング湖における湖氷移動

佐々木 異 70

東北日本沖の北西太平洋深海底に分布する火山灰の同定

青木 かおり 70-71

北海道における「主要観光地」の類型化

小松原 尚 71-72

函館市における旅館・ホテルの立地と近年の変容	-湯の川温泉街の事例-	奥 平 理	73
ネパールにおける農業開発援助と農業の現状	土 井 時 久	74	
東京ファッショングデザイン業の生産構造	初 沢 敏 生	74-75	
2020年代のわが国の土地利用概況の予測	氷見山 幸 夫	75-76	
流況調整河川の水議論	相 原 正 義	76-77	
石狩湾新港地域における地域開発の変遷について	-明治期から昭和初期までを中心として-	菊 地 達 夫	78
北海道東部における港湾および港湾背後圏の特性について	酒 井 多加志	78-79	
産炭地振興計画の地域的特性と問題点	-北海道空知地区の旧産炭地を事例として-	山 下 克 彦	79-80
北海道における診療費の市町村別分布からみた地域特性	寺 田 稔	81-82	
地理教育におけるインターネット利用	深 見 亘	82-83	
志賀重昂の火口湖景観論	-北海道の火口湖や十和田湖を例に-	米 地 文 夫	83-84
大雪山国立公園における自然環境の保全・管理の適性化(第6報)	-指定60周年記念を迎えた	武 田 泉	84-85
大雪山国立公園をめぐる今日的社会情勢-			
後志利別川低地の沖積層		鈴 木 正 章	85-86
巡査報告			
道南の歴史的風土			
会報		奥 平 忠 志	87-89
会則		貞 方 昇	
		渡 辺 英 郎	
		奥 平 理	

72号 1998年 4月

論文

大雪山国立公園、旭日岳ロープウェイと姿見の池遊歩道の利用環境の改善の方向性

The Nangama Glacial Lake Outburst Flood Occurred on 23 June 1980 in the Kanchanjunga Area, Eastern Nepal

Sedimentary Structure of Debris in Hollow Deposited during Selective Logging

大雪山国立公園高原温泉におけるマイカー規制についての意識調査

研究ノート

『米欧回覧実記』に現れた2つの近代語について

スキー修学旅行を通しての環境教育的な地域学習 -長野県志賀高原一ノ瀬スキー場の事例を中心として-

書評

内田 実著: 北海道農業地域論

寺本 潔・井田 仁康・田部 俊充・戸井田 克巳著: 地理の教え方

1997年度春季大会報告要旨

ネパール・ジャナクプル地域の灌漑開発援助と農業の変化

北海道におけるブティックの特徴 -流通・生産構造を中心として-

ニュータウン開発による混住化の特性 -佐倉市ユーカリが丘を事例として-

渡 辺 悅 二	1-12
古 畑 亜 紀	
渡 辺 悅 二	13-20
N.R. カナール	
M.P. ゴータム	
竹 下 紀 子	21-28
倉 茂 好 匠	
平 川 一 臣	
深 澤 京 子	29-38
羽 田 野 正 隆	39-42
菊 地 達 夫	43-52
土 井 時 久	53-55
山 下 克 彦	55-56
土 井 時 久	57
近 藤 巧	
長 南 史 男	
初 沢 敏 生	57-58
高 橋 徹	58

ファッショニ性を有する都市型スキー場の経営戦略 ースノクールオーンズスキー場を中心としてー	菊地達夫	58-59
生鮮野菜輸入の地域構造とフードシステム	荒木一視	59-60
釧路湿原地域における観光拠点利用パターン	小松原尚	60-61
巡査報告		
中空知の旧産炭地(砂川・上砂川・歌志内・赤平)の変容	山下克彦	63-65
	大内定	
	三好勲	
	武田英俊	
会報		
会則		

73号 1999年 4月

論文		
別海町ケネヤウシュベツ川沿いのアースハンモック	曾根敏雄	1-10
Expected Tourism Growth in the Kanchanjunga Area, Eastern Nepal Himalaya, and Its Possible Impacts to Yak Herders and Mountain Environments: Lessons from Sagarmatha (Mount Everest) National Park	原田鉱一郎	
渡辺悌二	11-22	
札幌市における商業構造の変容 ー類型化における分析手法の検討を中心としてー	池田菜穂	
研究ノート		
北海道後志地方沿岸の波食棚について	北田晃司	23-38
北海道におけるスキー場の立地特性	稻益寛	39-56
資料		
トッタベツ川上流における最終氷期の堆積段丘に関する火山灰編年学的資料	大谷武史	57-68
大雪山主稜線付近に分布する完新世テフラ ー同定と高山環境変動の問題検討への意義ー	菊地達夫	69-78
平川一臣	79-84	
岩崎正吾		
中村有吾	85-92	
片山美紀		
平川一臣		
石川守		
紀行		
ネパール・バングラデ ⁺ シュの農村	土井時久	93-98
1998年度春季大会報告要旨		
北海道のヤマセ	大川隆	99
コンビニエンスストアの物流システム ー北海道に進出している4大チェーンの物流システムについてー	高橋徹	99-100
課外活動を通じての環境教育の展開	菊地達夫	100
大雪山高根ヶ原における湿地形成	高橋伸幸	100-101
豊平川中流域の河岸段丘 ー支流段丘および背後山麓斜面との関係を中心にー	大内定	101-102
巡査報告		
栗山町の産業基盤と町づくり	進藤賢一	103-105
	大内定	
会報		
会則		

74号 2000年 4月

紙碑

奈良部先生を悼む

研究ノート

道内居住者に見るスキ－場の選択条件

北海道大学構内の沖積層表層部の堆積構造、堆積年代および液状化

山下克彦 1

菊地達夫	3-7
平川一臣	9-14
中村有吾	
研川英征	
小杉康	
劉大刀	

解説

スイス国立公園拡大化の意義と問題点

渡辺悌二	15-22
澤柿教伸	
平川一臣	
松岡憲知	

資料

新学習指導要領「地理B」における「系統地理的な視点」について

佐久間直樹 23-27

1999年度春季大会報告要旨

大谷武史	29-30
寺田稔	30-31
谷川尚哉	31
羽田野正隆	31
橋本雄一	
土井時久	32
長南史男	
近藤巧	
菊地達夫	33
武田泉	

北海道後志地方沿岸の波食棚の地形的特性について

北海道の中山間農業地域について

新学習指導要領の批判的検討

十勝圏の人口移動と地域分化－1980年以降を中心に－

ネバールにおける乾季畑作と灌漑

地域認識を体得するための巡査とその実施形態

大内定 35-36

巡査報告

ニシンの歴史とリンゴのふるさと・余市町を巡る

会報

75号 2001年 4月

50周年記念シンポジウム

シンポジウムの趣旨

基調講演：北海道の自然と自然保護－湿地を事例として－

高橋伸幸	1-2
辻井達一	3-15
金晃太郎	17-26
小野有五	27-31
氷見山幸夫	32-40
藤田郁男	41-50
佐々木巽	51-55
大内定	57-66

北海道の環境

北海道の環境問題と地理学の役割

地図で環境を考える

学校教育における環境問題の学習と指導－その問題と課題－

シンポジウムのまとめ

北海道地理学会小史

元会長へのインタビュー

元会長からのメッセージ

2000年度春季大会報告要旨

カンチエンジュンガ・ヒマールにおける岩石氷河と山岳永久凍土分布	石川 守	77
	渡辺 悅二	
	中村 直弘	
ネパール東部、カンチエンジュンガ自然保全地域におけるブルーシープの分布と保全	渡辺 悅二	77
	大瀧 洋子	
	ラクシミ, T.	
オホーツク海に流入する河川の特性について	宮内 盛一	78
	佐々木 異	
長野都市圏における交通体系の変化と課題	百瀬 裕水	79
GIS を用いた都市社会環境の分析	川村 真也	80
北海道の農業地域における生活環境と地域の活性化	寺田 稔	81
会報		

著者別索引

著者名	題目	号	頁
[ア]			
相原正義	流況調整河川の水議論（要旨）	71	76-77
青木かおり	東北日本沖の北西太平洋深海底に分布する火山灰の同定（要旨）	71	70-71
東廉	札幌市における人口密度分布とその変化	53	7-13
東谷清次	北海道農村社会構造－集落地理学への社会学的アプローチ－（要旨）	11・12	6
阿由葉元	群馬県大間間扇状地の地下水について（要旨）	45	15
荒木一視	生鮮野菜輸入の地域構造とフードシステム（要旨）	72	59-60
栗井秀和	札幌市における冬季間の気温分布についての一考察	47	41-44
飯田精一	中学校における選択履修の幅の拡大に対応する指導の在り方	68	41-46
五十嵐八枝子	北海道北部風蓮・剣淵地域の段丘堆積物の ¹⁴ C年代と花粉資料（大丸裕武・中村俊夫・平松和彦・宮城豊彦と連名）	63	1-8
井黒弥太郎	石狩平野の開拓（要旨）	11・12	6-7
	札幌市大谷地原野の開拓－石狩平野の一サンプル－	20	1-8
	天塩の開拓（要旨）	27	1-2
池田菜穂	Expected Tourism Growth in the Kanchanjunga Area, Eastern Nepal Himalaya, and Its Possible Impacts to Yak Herders and Mountain Environments:Lessons from Sagarmatha (Mount Everest) National Park（渡辺悌二と連名）	73	11-22
石川守	大雪山主稜線付近に分布する完新世テフラ－同定と高山環境変動の問題検討への意義－（中村有吾・片山美紀・平川一臣と連名）	73	85-92
	カンチエンジュンガ・ヒマールにおける岩石氷河と山岳永久凍土分布（要旨）（渡辺悌二・中村直弘と連名）	75	77
石倉大輔	道央圏における広島町の将来展望	64	29-36
伊藤久雄	水産都市としての根室の性格	31・32	5-12
	根室地方の水産業	33	1-7
	北海道離島漁村の地理学的研究－第1報－	35	1-4
	右左府盆地の段丘地形と堆積物	39	8-12
	昭和初年における国後・択捉島及び色丹島の水産業	41	1-8
	北海道の離島漁村 厚岸小島	42	12-16
	奥尻島の漁村	43	15-19
	山村占冠の開拓と交通路（要旨）	43	21-22
	野幌屯田兵村地域の変容－札幌としての住宅地化－	46	8
	野幌の窯業	47	30-34
稻益寛	札幌市における商業構造の変容－類型化における分析手法の検討を中心として－	73	39-56
今井敏信	北海道における特殊農産物の生産と流通	48	19-25
	New Zealand 南島 Canterbury 平野の地形について	53	40-46
	北海道浦河町における農業的土地利用の変化－1971～1981－（大脇演幸と連名）	56	7-15
	カナダにおける農業的土地利用の地域的変化	61	9-17
	カナダの Prairies における農業的土地利用について	64	1-14
	北海道浦河町における農業的土地利用の変化(3)（大脇演幸と連名）	65	15-26
	北海道における相対的土地生産性について	68	1-6
岩崎一孝	橋爪若子：オーストラリア入門（書評）	60	47

門村 浩・武内和彦・大森博雄・田村俊和：環境変動と地球砂漠化（書評）	66	33
西高東低気圧配置下の北海道の降水量分布(第1報)	67	39-40
「気温図表」からみた日本列島の特性－その1－（羽田野 正隆と連名）	69	1-12
地理情報システムによる気候データの解析－北海道積雪深データを例として－（橋本 雄一と連名）	69	39-48
苦小牧地域の自然と産業の変容（巡査報告）（山下 克彦・進藤 賢一・大内 定と連名）	69	67-71
岩崎 正吾 トッタベツ川上流における最終氷期の堆積段丘に関する火山灰編年学的資料（平川 一臣と連名）	73	79-84
岩瀬 正人 千歳市の特質と開発への課題－道央メガロポリスにおける市の分担すべき機能を中心として－（シンポジウム報告）	44	1
内田 淳一 北海道の屯田兵制度－沿革と土地制度－	17	1-5
内田 実 石狩川中下流域における集落立地について（要旨）	43	22-23
北海道酪農の発展過程	44	12
千葉県酪農と安房の酪農構造	45	7-13
富良野盆地の酪農について	46	23
カリフォルニアの稻作農業	52	41-49
北海道農業の空間構造（黒沢 恵美子・竹生 かおり・辻本 ゆかり・久末 洋子と連名）	65	1-14
榎本 昌一 地理学習指導の中心的问题点－略図中心の授業展開－	29	2-4
大内 定 北海道日高地方沿岸東部の段丘形成史	52	1-8
郷土と科学編集委員会：続北海道5万年史（書評）	60	48
人類とエネルギー研究会編：地球環境と人間－環境の保全と成長の持続は可能か－（書評）	64	62
石狩川中・下流域における農村の変化（巡査報告）（進藤 賢一・山下 克彦と連名）	68	55-57
苦小牧地域の自然と産業の変容（巡査報告）（山下 克彦・進藤 賢一・岩崎 一孝と連名）	69	67-71
鶴川および沙流川の中・下流域における自然と産業（巡査報告）（進藤 賢一・菊地 正義・山内 正明と連名）	70	51-58
中空知の旧産炭地（砂川・上砂川・歌志内・赤平）の変容（巡査報告）（山下 克彦・三好 煉・武田 英俊と連名）	72	63-65
豊平川中流域の河岸段丘－支流段丘および背後山麓斜面との関係を中心に－	73	101-102
栗山町の産業基盤と町づくり（巡査報告）（進藤 賢一と連名）	73	103-105
ニシンの歴史とリンゴのふるさと・余市町を巡る	74	35-36
北海道地理学会小史	75	57-66
大川 隆 北海道のヤマセ（要旨）	73	99
大瀧 洋子 ネパール東部、カンチエンジュンガ自然保全地域におけるブルーシープの分布と保全（要旨）（渡辺 梢二・ラクシミ、ティミルシナと連名）	75	77
大谷 武史 北海道後志地方沿岸の波食棚について	73	57-68
北海道後志地方沿岸の波食棚の地形的特性について（要旨）	74	29-30
大場 稔 市町村別データと旧市町村別データによる作物結合型の対比－東北地方を例として－（岡本 次郎・竹森 茂雄と連名）	58	35-37
大場 与志男 羊蹄山山麓の陥没孔（守屋 以智雄と連名）	52	9-14
大渕 玄一 洞爺湖温泉の紹介	6・7	1-2
大森 好男 高校地理における統計学習について	37	1-5
大脇 演幸 北海道浦河町における農業的土地利用の変化－1971～1981－（今井 敏信と連名）	56	7-15
北海道浦河町における農業的土地利用の変化(3)（今井 敏信と連名）	65	15-26

小笠原 政一	今後の釧路市の都市計画について（シンポジウム報告）	46	19
岡 本 次郎	小樽市朝里川の段丘と扇状地（要旨）	11・12	8
	米作限界地の土地利用 - 美深町における水田の畠地還元について - (要旨)	28	3
	美深町水田の畠地還元について(第2報)	30	5-7
	上川水田の発展における屯田兵制度の意義	31・32	12-13
	地理学における電算機利用の展望	57	33-35
	市町村別データと旧市町村別データによる作物結合型の対比 - 東北地方を例として - (大場 稔・竹森 茂雄と連名)	58	35-37
	「集落カード」の分析にあたっての問題点 - 第二種兼業農家率を例として - (小川 邦彦・松田 聰と連名)	58	38-42
	元木 靖著: 現代日本の水田開発 - 開発地理学的手法の展開 - (書評)	71	65-68
小 川 邦 彦	「集落カード」の分析にあたっての問題点 - 第二種兼業農家率を例として - (岡本 次郎・松田 聰と連名)	58	38-42
小 川 博 三	満州における交通拠点地名について	39	1-7
	アングロアメリカにおける交通拠点地名について	40	11-23
	スペイン集落の諸形態について (要旨)	43	23
奥 井 正 俊	交通網構造の地域差に関する一考察	57	8-12
奥 平 理	福岡市における卸売事業所の立地変動	65	35-46
	「地理B」指導方法の考察	68	47-54
	函館市における旅館・ホテルの立地と近年の変容 - 湯の川温泉街の事例 - (要旨)	71	73
	道南の歴史的風土 (巡査報告) (奥平 忠志・貞方 昇・渡辺 英郎と連名)	71	87-89
奥 平 忠 志	港湾都市を中心とする地理学的諸問題 (シンポジウム報告)	46	14
	港湾都市についての若干の問題 - いわき市を例として -	46	15
	都市的土地利用と地価の関係について - 函館と苦小牧の場合 -	50	22-26
	オーストラリアの首都キャンベラの都市化	53	47-53
	本会顧問・亀谷 栄先生のご逝去を悼む	66	35
	地価高騰とマンション建設 - 函館の事例 -	67	7-12
	道南の歴史的風土 (巡査報告) (貞方 昇・渡辺 英郎・奥平 理と連名)	71	87-89
奥 本 繁	「身近な地域」の教材構成に関する研究	62	19-24
尾 崎 功	中学校における読図指導 - とくに大縮尺の地形図について -	49	27-28
	中学校における地図指導の実践	50	27-36
長 南 史 男	ネパールへの肥料援助とカトマンズ盆地における農業の変化(土井 時久・近藤 巧と連名)	71	1-12
	ネパール・ジャナクブル地域の灌漑開発援助と農業の変化 (要旨) (土井 時久・近藤 巧と連名)	72	57
	ネパールにおける乾季畑作と灌漑 (要旨) (土井 時久・近藤 巧と連名)	74	32
小 野 有 五	北海道の環境問題と地理学の役割 (シンポジウム報告)	75	27-31
小野寺 弘 道	昭和56年8月豪雨による日高地方の崖崩れの災害について	56	1-6
折 笠 義 之	苦小牧市と工業港 (シンポジウム報告) (帰山 次正・木村 浩と連名)	44	5-7
恩 田 德 生	北海道における商業圈について	35	5-10
	新産業都市建設をめぐる道央地域の開発問題	36	1-6
	地方都市としての滝川 (シンポジウム報告)	44	7-9
[力]			
柏 村 一 郎	市街地と農村部落の人口増減 - 美幌町の場合 -	1	4
	豊平川沿岸ミスマイ地域の調査	28	3-4
	知床半島調査の概報	30	1-4

日本地理学会1961年度春季大会報告	33	8
空知地方の農地利用の変化	38	5-9
美唄を中心とした米の作付調整	47	9-12
伊藤久雄先生の急逝を悼む	49	31-32
東南アジアの印象	50	37-39
山本博信学兄の逝去を悼む	52	59
札幌地理サークル編：ウォッチング札幌（書評）	61	42
片山 美紀 大雪山主稜線付近に分布する完新世テフラ —同定と高山環境変動の問題検討への意義—（中村 有吾・平川 一臣・石川 守と連名）	73	85-92
N.R. カナール The Nangama Glacial Lake Outburst Flood Occurred on 23 June 1980 in the Kanchanjunga Area, Eastern Nepal（渡辺 梓二・M.P. ゴータムと連名）	72	13-20
金光 保 北海道2万5千分の1土地利用図の解析（第2報）（氷見山 幸夫・藤弘 享と連名）	58	24-28
神山 健 北海道農牧業地域の分類	42	1-11
亀田 一雄 夕張郷土新誌	21	1-4
川田 一之 「全国市町村別農業データ」による農業地域の分析（若井 旭人と連名）	56	43-46
川村 真也 GISを用いた都市社会環境の分析（要旨）	75	80
佐々木 異 Sediment Transport accompanied by the Shoreward Movement of Lake Ice	66	1-6
菊地 達夫 北海道における食品工業の成立要因 —明治期における官営工場の立地を手がかりに—	70	13-20
本州との比較からみた北海道のレクリエーションスキーの特色とその地域性	71	33-42
石狩湾新港地域における地域開発の変遷について —明治期から昭和初期までを中心として—（要旨）	71	78
スキー修学旅行を通しての環境教育的な地域学習 —長野県志賀高原一ノ瀬スキー場の事例を中心として—	72	43-52
ファッショニ性を有する都市型スキー場の経営戦略 —スノーカールオーンズスキー場を中心として—（要旨）	72	58-59
課外活動を通じての環境教育の展開（要旨）	73	100
北海道におけるスキー場の立地特性	73	69-78
道内居住者に見るスキー場の選択条件	74	3-7
地域認識を体得するための巡査とその実施形態（要旨）（武田 泉と連名）	74	33
菊地 正義 鶴川および沙流川の中・下流域における自然と産業（巡査報告）（進藤 賢一・大内定・山内 正明と連名）	70	51-58
北田 晃司 韓国における観光地理学研究の動向	70	21-26
殖民地時代の朝鮮における鉄道網の発達と都市システムの変遷	73	23-38
石狩浜における大地電気比抵抗探査（曾根 敏雄・高橋 伸幸と連名）	65	57-58
木村 栄ノ進 「豊浜トンネル」崩落事故現場を見る	70	37-42
木村 司 夕張市の地勢	16	3-5
木村 浩 苫小牧市と工業港（シンポジウム報告）（帰山 次正・折笠 義之と連名）	44	5-7
帰山 次正 苫小牧市と工業港（シンポジウム報告）（木村 浩・折笠 義之と連名）	44	5-7
倉茂 好匡 山地小流域河川における河川床堆積物表面微粒構造の経時変化	68	15-20
GRADUS, Y. 「砂漠の開発と砂漠化」	70	
黒沢 恵美子 北海道農業の空間構造（内田 実・竹生 かおり・辻本 ゆかり・久末 洋子と連名）	65	1-14
アラン諸島の自然と文化	65	59-67

M.P. ゴータム	The Nangama Glacial Lake Outburst Flood Occurred on 23 June 1980 in the Kanchanjunga Area, Eastern Nepal (渡辺 健二・N.R. カナーと連名)	72	13-20
COLEMAN, A.	Design Disadvatagement in Housing	66	25-32
小杉 康	北海道大学構内の沖積層表層部の堆積構造、堆積年代および液状化 (平川 一臣・中村 有吾・研川 英征・劉 大刀と連名)	74	9-14
小杉 健三	北海道沿岸の風成砂の粒度組成について	40	1-10
	北海道における周氷河地形の研究(I)	47	35-40
	士別市付近の地形と土地利用	49	12-18
	道北地方における炭田の開発 (横平 弘と連名)	50	8-15
後藤 忠志	学校教育における野外活動の現状と環境教育の理念 -北海道と青森県の事例- (武田 泉と連名)	69	57-66
小林 和夫	松浦武四郎の石狩川調査	53	27-39
	チャシの分布に対するチャシ地名からの接近	54	24-45
	コタンとその立地	62	7-18
小松原 尚	ジャージー牛地域の現状と課題 -山高原・川上村の事例分析-	55	17-23
	根釧地域におけるジャージー牛飼養の事例分析	57	26-32
	社会科の総合性と地図の構成	61	23-27
	矢田 俊文編著: 地域構造の理論 (書評)	65	68
	農業地域と過疎問題	66	19-24
	農山村における「地域活性化」の現状と課題 -北海道羊蹄山麓地域を事例として-	67	1-6
	佐藤 正之著: 北紀行 -変わら北海道の街と経済- (書評)	69	72
	北海道における「主要観光地」の類型化 (要旨)	71	71-72
	釧路湿原地域における観光拠点利用パターン (要旨)	72	60-61
金 晃太郎	北海道の環境 (シンポジウム報告)	75	17-26
近藤 巧	ネパールへの肥料援助とカトマンズ盆地における農業の変化(土井 時久・長南 史男と連名)	71	1-12
	ネパール・ジャナクブル地域の灌漑開発援助と農業の変化 (要旨) (土井 時久・長南 史男と連名)	72	57
	ネパールにおける乾季畑作と灌漑 (要旨) (土井 時久・長南 史男と連名)	74	32
 〔サ〕			
斎藤 享治	扇状地事始	59	44-45
	日本の山地の発達と扇状地	60	1-6
	台湾島の山地の発達段階	63	9-16
斎藤 博英	北海道における天気の変動 (講演要旨)	34	10
酒井 多加志	釧路港の拡大と後背地の拡大	67	13-18
酒井 多加志	登別温泉の形成過程と集落構造 (割石 敏昭と連名)	68	35-40
	韓国ソウルの都市交通の特性	68	7-14
	北海道東部における港湾および港湾背後圏の特性について (要旨)	71	78-79
佐久間 直樹	新学習指導要領「地理B」における「系統地理的な視点」について	74	23-27
佐々保 雄	空中写真的地学における利用 (要旨)	11・12	1-2
	北海道鳥瞰(I) (要旨)	43	23-24
	日本海岸線鳥瞰 (要旨)	45	16
	北海道と樺太との地学的関連 -その1-	55	1-7
	シンポジウムのまとめ	75	51-55
佐々木 異	アイスランパートと浜堤	60	7-13
	アラスカ州ハーディング湖における湖氷移動 (要旨)	71	70

貞 方 昇	オホーツク海に流入する河川の特性について（要旨）（宮内 盛一と連名）	75	78
	アスパラガスについての研究（第2報）	15	1-3
	羊蹄山付近の土地利用	19	1-6
	インド・マラバール海岸カナラ地方の地形と表層地質	61	1-8
佐 藤 清 美	道南の歴史的風土（巡査報告）（奥平 忠志・渡辺 英郎・奥平 理と連名）	71	87-89
佐 藤 慶 二	アスパラガスについての研究（第1報）	9・10	1-2
	富士見爆裂火口	2	3-4
	有珠昭和新山に就いて	5	1-4
	丸山に就いて	21	5-7
里 見 清 孝	「農業集落カード」による北海道の農業集落の類型分析（文仙 敏宏と連名）	56	40-42
澤 柿 教 伸	スイス国立公園拡大化の意義と問題点（渡辺 恒二・平川 一臣・松岡 憲知と連名）	74	15-22
沢 田 準 一	札幌地理研究会の歩み 一大正13年より昭和16年まで（宮崎 芳男・山本 廉太郎と連名）	38	1-4
澤 田 芳 一	故宮崎芳男先生の生涯	64	63
塩 見 一 夫	テレビ教材を利用した地理の学習指導（塚本 謙蔵・渡辺 英郎と連名）	38	10-22
下 川 和 夫	南極紀行	64	37-40
肖 平 (XIAO Ping)	The Cultivated Land Change and its Impacts on Grain Production in China	71	
進 藤 賢 一	北海道における農村立地工業の産地形成に及ぼした影響について 一アスパラガス一	43	1-8
	農産缶詰資本と契約農民との対応	43	20
	北海道における農地移動の研究（I）	47	1-8
	北海道のインテグレーション問題	48	26-40
	十勝農業における法人化問題	50	16-21
	日高地方における軽種馬の生産構造	51	13-19
	北後志の果樹生産と流通について	52	21-30
	軽種馬産地帯の農業経営と土地利用の変化 一減速経済への移行期を中心に浦河、静内を事例として一	54	1-14
	零細生産力地帯の農業実態 一洞爺村を事例として一	56	16-26
	土地生産性向上のための輪作、土地づくり 一富良野地区を事例として一	59	6-17
	牛肉流通の新しい局面 一大規模畜産基地、北海道一	60	14-26
	坂本 英夫：農業地理学（書評）	62	37
	石狩川中・下流域における農村の変化（巡査報告）（大内 定・山下 克彦と連名）	68	55-57
	苦小牧地域の自然と産業の変容（巡査報告）（山下 克彦・大内 定・岩崎 一孝と連名）	69	67-71
	鶴川および沙流川の中・下流域における自然と産業（巡査報告）（大内 定・菊地 正義・山内 正明と連名）	70	51-58
	ワールドロペットと地理学徒	71	55-60
	栗山町の産業基盤と町づくり（巡査報告）（大内 定と連名）	73	103-105
鈴 木 邦 輝	天塩川流域のコタンの分布 一19世紀の文献資料から一	58	30-34
鈴 木 正 章	後志利別川低地の沖積層（要旨）	71	85-86
瀬 川 秀 良	北海道熊石町・大成町付近の海岸段丘とその ¹⁴ C年代	49	1-6
	亀田半島東岸中部の海岸段丘と麓前面	59	1-5
関 口 淳	高校地理Bの隘路	49	22-26
千 田 浩 史	牛の地理	26	1-9
	石狩町における漁村の現状（要旨）	45	14
曾 根 敏 雄	石狩浜における大地電気比抵抗探査（高橋 伸幸・北原 智之と連名）	65	57-58

別海町ケネヤウシュベツ川沿いのアースハンモック (原田 鉱一郎・田中 静幸と連名)	73	1-10
[タ]		
大丸 裕武 北海道北部風蓮・剣淵地域の段丘堆積物の ¹⁴ C年代と花粉資料 (五十嵐 八枝子・中村 俊夫・平松 和彦・宮城 豊彦と連名)	63	1-8
高橋 徹 ニュータウン開発による混住化の特性 -佐倉市ユーカリが丘を事例にして-	71	43-54
ニユータウン開発による混住化の特性 -佐倉市ユーカリが丘を事例として- (要旨)	72	58
コンビニエンスストアの物流システム -北海道に進出している4大チェーンの物流システムについて- (要旨)	73	99-100
高橋伸幸 石狩浜における大地電気比抵抗探査 (曾根 敏雄・北原 智之と連名)	65	57-58
凍土の融解期における大雪山白雲岳火口湖の消滅	69	49-56
大雪山高根ヶ原における湿地形成 (要旨)	73	100-101
シンポジウムの趣旨	75	1-2
高平順夫 苦小牧港の近況	44	12-13
武石文人 十勝地方における農業協業経営の地理学的考察	39	13-22
根釧パイロットファームの現況	40	24-30
竹下紀子 Sedimentary Structure of Debris in Hollow Deposited during Selective Logging (竹下 紀子と連名)	72	21-28
武田 泉 国鉄改革で北海道鉄道事業はいかに変化したのか -改革5周年を迎えて-	67	47-56
キロロリゾート開発の始動と2年目の課題	67	57-60
エコツーリズムの概念とその応用 -公共交通優先政策との関連を視座に入れて- 学校教育における野外活動の現状と環境教育の理念 -北海道と青森県の事例- (後藤 忠志と連名)	68	29-34
大雪山国立公園における自然環境の保全・管理の適性化(第6報) -指定60周年記念を迎えた大雪山国立公園をめぐる今日的社会情勢- (要旨)	71	84-85
地域認識を体得するための巡査とその実施形態 (要旨) (菊地 達夫と連名)	74	33
武田英俊 中空知の旧産炭地(砂川・上砂川・歌志内・赤平)の変容 (巡査報告) (山下 克彦・大内 定・三好 煉と連名)	72	63-65
竹生かおり 北海道農業の空間構造 (内田 実・黒沢 恵美子・辻本 ゆかり・久末 洋子と連名)	65	1-14
竹森茂雄 市町村別データと旧市町村別データによる作物結合型の対比 -東北地方を例として- (岡本 次郎・大場 稔と連名)	58	35-37
田中静幸 別海町ケネヤウシュベツ川沿いのアースハンモック (曾根 敏雄・原田 鉱一郎と連名)	73	1-10
田中秀作 フロンティアとしての北海道と米国	1	3-4
棚瀬善一 続十勝開拓地理 (要旨)	11・12	5
谷内達 石狩高岡台地における土地利用とその変化 (羽田野 正隆と連名)	52	15-20
北海道の人口増加をめぐる国際比較	52	50-53
北海道における交通圈の推移と都市システムの形成, 1887年~1935年	53	1-6
北海道の港湾分布における集中・分散, 1888年~1935年	54	46-52
外国の百科事典における北海道の記述	56	50-53
谷川尚哉 新学習指導要領の批判的検討 (要旨)	74	31
田村正郎 地図と地理教育	55	28
丹治輝一 戦前における道南いか釣業の発展形態	47	22-29
塚本謙蔵 テレビ教材を利用した地理の学習指導 (塩見 一夫・渡辺 英郎と連名)	38	10-22

辻 井 達 一	基調講演：北海道の自然と自然保護 ー湿地を事例としてー（シンポジウム報告）	75	3-15
辻 本 ゆかり	北海道農業の空間構造（内田 実・黒沢 恵美子・竹生 かおり・久末 洋子と連名）	65	1-14
土 屋 貢	栗山町における工業立地の諸問題（要旨）	44	2-5
寺 田 稔	日本における花き栽培の現状と類型区分	70	1-12
_____	北海道における診療費の市町村別分布からみた地域特性（要旨）	71	81-82
_____	北海道の中山間農業地域について（要旨）	74	30-31
_____	北海道の農業地域における生活環境と地域の活性化（要旨）	75	81
寺 谷 亮 司	わが国における支店の集積 ー都道府県および県庁所在都市の分析ー	69	13-20
土 井 時 久	農業技術革新の普及規定要因に関する正準相関分析 ー大正期繭、一代交雑種の事例ー	51	34-37
_____	産繭拡大に伴う裁桑技術進歩の地域性	56	27-32
_____	ネパールへの肥料援助とカトマンズ盆地における農業の変化（近藤 巧・長南 史男と連名）	71	1-12
_____	ネパール・カトマンズ盆地農業の変化（要旨）	71	69
_____	ネパールにおける農業開発援助と農業の現状（要旨）	71	74
内田 実著	北海道農業地域論（書評）	72	53-55
_____	ネパール・ジャナクプル地域の灌漑開発援助と農業の変化（要旨）（近藤 巧・長南 史男と連名）	72	57
_____	ネパール・バングラテ シュの農村	73	93-98
研 川 英 征	ネパールにおける乾季畑作と灌漑（要旨）（長南 史男・近藤 巧と連名）	74	32
_____	北海道大学構内の沖積層表層部の堆積構造、堆積年代および液状化（平川 一臣・中村 有吾・小杉 康・劉 大刀と連名）	74	9-14
栃 木 義 正	北海道の寒さと積雪（要旨）	11・12	7-8
_____	「北海道地名索引」について（紹介）	55	35-36
富 田 芳 郎	台湾の集落（要旨）	11・12	3-4
鳥 居 栄一郎	北海道における地下水の研究史	52	31-34
_____	天北地域の地質構造について	55	8-16
 〔ナ〕			
永 幡 豊	北海道における神社の分布について	57	20-25
_____	知床国立公園内の100m ² 運動と国有林伐採計画について（長谷川 武と連名）	61	28-35
中 村 直 弘	カンチエンジュンガ・ヒマールにおける岩石氷河と山岳永久凍土分布（要旨）（石川 守・渡辺 悅二と連名）	75	77
中 村 俊 夫	北海道北部風蓮・剣淵地域の段丘堆積物の ¹⁴ C年代と花粉資料（大丸 裕武・五十嵐 八枝子・平松 和彦・宮城 豊彦と連名）	63	1-8
中 村 康 子	地理情報システム(GIS)の特徴とその活用 ー主題図作成メニューの紹介を通してー	69	21-38
中 村 有 吾	大雪山主稜線付近に分布する完新世テフラ ー同定と高山環境変動の問題検討への意義ー（片山 美紀・平川 一臣・石川 守と連名）	73	85-92
_____	北海道大学構内の沖積層表層部の堆積構造、堆積年代および液状化（平川 一臣・研川 英征・小杉 康・劉 大刀と連名）	74	9-14
奈良部 理	天北地方海岸原野の地形と土地利用（要旨）	11・12	5-6
_____	児島湾の開拓（要旨）	28	1-2
_____	北海道の気候変化	29	1-2
沼 田 武	門前町成田と池上の商店街（要旨）	14	1-2
_____	有珠湾の海苔養殖	16	1-2

苦小牧市の地域性	27	3
札幌市における晴天率資料（要旨）	45	14
北海道高校の地理教育研究会の動き	49	19-21
地形指導と資料図	55	29-34
広田芳男君の逝去を悼む	58	51
建物業種からみた薄野の地域構造	59	27-31
札幌市における中心商店街の構成(1)	60	27-32
根田克彦 北海道における商圈構造	62	1-6
野川潔 日本地理学会1962年度春季大会報告	33	9
北海道東部海岸地域の地形学的研究 - 第1報, 根室半島の地形	34	1-9
根室半島における二、三の気候地形	37	26-30
北海道20万分の1土地分類図について	52	57-58
斎藤享治：日本の扇状地（書評）	63	40
信岡貢 近郊地域をどうとらえるか -伊達を中心として-	41	20-26
 〔ハ〕		
橋本雄一 地理情報システムによる気候データの解析 -北海道積雪深データを例として- (橋本雄一と連名)	69	39-48
十勝圏の人口移動と地域分化 -1980年以降を中心に- (要旨) (羽田野正隆と連名)	74	31
長谷川武 知床国立公園内の100m ² 運動と国有林伐採計画について (永幡豊と連名)	61	28-35
羽田野正隆 石狩高岡台地における土地利用とその変化 (谷内達と連名)	52	15-20
北海道庁の地形図に関する資料	52	54-56
帯広市を中心とした人口移動の分析 -グラビィ・モデルの適用をめぐって-	53	14-18
A Colonial Land Division Plan in Hokkaido	56	47-49
明治初期静内郡絵図に関する若干の考察 (平井松午と連名)	65	27-34
「気温図表」からみた日本列島の特性 -その1- (岩崎一孝と連名)	69	1-12
『米巡回覧実記』に現れた2つの近代語について	72	39-42
十勝圏の人口移動と地域分化 -1980年以降を中心に- (要旨) (橋本雄一と連名)	74	31
初沢敏生 東京ファッショングライン業の生産構造 (要旨)	71	74-75
北海道におけるブティックの特徴 -流通・生産構造を中心として- (要旨)	72	57-58
花岡正光 渡島半島南部の完新世火山灰層序 -とくに駒ヶ岳火山灰e層(Ko-e)の対比について-	66	13-18
浜本武司 北十勝瓜幕扇状地の形成過程	51	8-12
浜森辰雄 稚内市の現況と将来	55	37
林隆治 故筒浦明先生を偲ぶ	67	61
原田鉱一郎 別海町ケネヤウシュベツ川沿いのアースハンモック (曾根敏雄・田中静幸と連名)	73	1-10
原田実 北海道の機械工業の構造特性に関する一考察	58	16-23
HUMPHRYS, G. Population Loss in Northern Japan: The Experience of Hokkaido in the 1980s	64	41-50
Recent Changes in British School Geography (記念講演)	64	51-61
疋田武 開拓農業の一考察 -千歳市域を中心として	36	7-10
久末洋子 北海道農業の空間構造 (内田実・黒沢恵美子・竹生かおり・辻本ゆかりと連名)	65	1-14
氷見山幸夫 英国ダーナム州における土地利用 -その定量的解析について-	56	33-39
北海道内2万5千分の1土地利用図の解析 (第1報)	57	1-7

	北海道2万5千分の1土地利用図の解析(第2報)(金光保・藤弘享と連名)	58	24-28
	1930年代以降の中国東北部の土地利用変化概況(要旨)	71	69
	2020年代のわが国の土地利用概況の予測(要旨)	71	75-76
	地図で環境を考える(シンポジウム報告)	75	32-40
平井松午	明治初期静内郡絵図に関する若干の考察(羽田野正隆と連名)	65	27-34
平川一臣	Sedimentary Structure of Debris in Hollow Deposited during Selective Logging(竹下紀子・倉茂好匡と連名)	72	21-28
	トッタベツ川上流における最終氷期の堆積段丘に関する火山灰編年学的資料(岩崎正吾と連名)	73	79-84
	大雪山主稜線付近に分布する完新世テフラ—同定と高山環境変動の問題検討への意義—(中村有吾・片山美紀・石川守と連名)	73	85-92
	北海道大学構内の沖積層表層部の堆積構造、堆積年代および液状化(中村有吾・研川英征・小杉康・劉大刀と連名)	74	9-14
	スイス国立公園拡大化の意義と問題点(渡辺悌二・澤柿教伸・松岡憲知と連名)	74	15-22
平松和彦	北海道北部風蓮・剣淵地域の段丘堆積物の ¹⁴ C年代と花粉資料(大丸裕武・五十嵐八枝子・中村俊夫・宮城豊彦と連名)	63	1-8
深澤京子	大雪山国立公園高原温泉におけるマイカー規制についての意識調査	72	29-38
深見亘	地理教育におけるインターネット利用(要旨)	71	82-83
藤井享	北海道におけるオホーツク海高気圧影響下の気候について—'83年夏季の低温と冷害	58	9-15
	北海道における1993年夏季の低温と冷害について	68	21-28
藤島範孝	北海道の中小炭鉱合理化について	36	11-19
	中小都市における中心商店街の変移について—岩見沢市を例として—(要旨)	43	20-21
	中小都市における中心商店街の変移—岩見沢市におけるRetail Shopを例として—	43	9-14
	北海道の地形分類(I)和名について	46	1-7
	北海道の地名と地形の関連について	46	24-25
	北海道の地名分類(5)—海岸周辺地名—	48	8-18
	稚内市経済社会長期計画の概要	55	24-27
藤田郁男	学校教育における環境問題の学習と指導—その問題と課題—(シンポジウム報告)	75	41-50
藤波孝成	雨竜沼	25	1-3
	北海道の雨竜沼湿原	31・32	3-4
藤弘享	北海道2万5千分の1土地利用図の解析(第2報)(氷見山幸夫・金光保と連名)	58	24-28
古川史郎	コロラド州東北部における甜菜栽培	41	9-15
古畑亜紀	大雪山国立公園、旭日岳ロープウェイと姿見の池遊歩道の利用環境の改善の方向性(渡辺悌二と連名)	72	1-12
文仙敏宏	「農業集落カード」による北海道の農業集落の類型分析(里見清孝と連名)	56	40-42
堀淳一	北ドイツの差別侵食地形2景	59	35-43
	雨と古蹟のドラムリン—アイスランドの旅・抄—	60	33-42
	水上住居をたずねて—アイスランド・クラゴーノーウェン訪問記—	62	31-36
	グレンコラムキル周遊記	63	23-30
 〔マ〕			
松岡憲知	スイス国立公園拡大化の意義と問題点(渡辺悌二・澤柿教伸・平川一臣と連名)	74	15-22

松 田 聰	「集落カード」の分析にあたっての問題点 — 第二種兼業農家率を例として — (岡本 次郎・小川 邦彦と連名)	58	38-42
光 岡 浩 二	岡山県における酪農の史的展開	27	3
宮 内 盛 一	オホーツク海に流入する河川の特性について (要旨) (佐々木 畿と連名)	75	78
宮 城 豊 彦	北海道北部風蓮・劍淵地域の段丘堆積物の ¹⁴ C年代と花粉資料 (大丸 裕武・五十嵐八枝子・中村 俊夫・平松 和彦と連名)	63	1-8
宮 崎 芳 男	札幌地理研究会の歩み — 大正13年より昭和16年まで — (沢田 準一・山本 慶太郎と連名)	38	1-4
三 好 敏	中空知の旧産炭地 (砂川・上砂川・歌志内・赤平) の変容 (巡査報告) (山下 克彦・大内 定・武田 英俊と連名)	72	63-65
村 田 博	交通事故分布の地域性 (要旨)	43	21
百瀬 裕水	長野都市圏における交通体系の変化と課題 (要旨)	75	79
森 壽美衛	安平台の耕作景観	2	1-2
	北海道関係地理学参考文献 — 地理学評論、地理雑誌、地理学、地理教育、地質学雑誌、科学 —	3	1-4
	南空知山地	6・7	5-8
	北海道風景の特色	8	1-4
	五島の地形 (要旨)	11・12	8
	北海道の5万分1地形図 (要旨)	13	1-3
	千歳町の地域性	18	1-4
	北海道の地名	22	1-5
	支笏洞爺国立公園	24	1-18
	夕張市の土地利用景観	27	3-4
守屋 以智雄	日本の第四紀火山の地形発達史	48	1-7
	羊蹄山山麓の陥没孔 (大場 与志男と連名)	52	9-14

〔ヤ〕

安 田 高 明	市街地発展に関する考察 — 札幌市北光地区 —	41	27-32
塩 見 一 夫			
山 川 勉	月寒台地の農作物分布とその立地条件	23	1-10
山 崎 長 吉	総合開発計画について	4	1-8
山 崎 幹 雄	釧路港の現状と課題 (要旨)	46	15-18
山 下 克 彦	十勝沖地震津波の宮城県中部海岸への影響	41	16-19
	過疎地域研究の一視点	48	41-44
	行政区域と広域圈計画との関連について	50	1-7
	道央地域における住宅造成の研究	51	1-7
	戦前の苫小牧における港湾計画の変遷	53	19-26
	苫小牧地区開発史年表：1950～70	54	53-73
	雲南省紀行 — シーサンパンナと少数民族 —	56	54-60
	北海道における農業公共投資の地域的配分について	58	1-8
	公共投資と地域経済 — 新酪農村建設事業を例として —	59	18-26
	道内におけるスクール・バス導入地域の特性	60	43-44
	最近10年間の道内における機械四業種の立地動向	60	45-46
	角川地名大辞典編纂委員会編：北海道上・下巻 (書評)	62	38
	石狩川中・下流域における農村の変化 (巡査報告) (大内 定・進藤 賢一と連名)	68	55-57
	苫小牧地域の自然と産業の変容 (巡査報告) (進藤 賢一・大内 定・岩崎 一孝と連名)	69	67-71

産炭地振興計画の地域的特性と問題点 — 北海道空知地区の旧産炭地を事例として — (要旨)	71 79-80
寺本 潔・井田 仁康・田部 俊充・戸井田 克巳著: 地理の教え方 (書評)	72 55-56
中空知の旧産炭地(砂川・上砂川・歌志内・赤平)の変容 (巡査報告) (大内 定・三好 熊・武田 英俊と連名)	72 63-65
奈良部先生を悼む (紙碑)	74 1
札幌近郊, 定山渓周辺の山地における斜面の縦断面形と土層構造	67 35-38
鶴川および沙流川の中・下流域における自然と産業 (巡査報告) (進藤 賢一・大内定・菊地 正義と連名)	70 51-58
札幌地理研究会の歩み — 大正13年より昭和16年まで — (沢田 準一・宮崎 芳男と連名)	38 1-4
最終氷期における数量的データからみたトマムの斜面堆積物の運搬営力の変化	66 7-12
日高山脈北部における周氷河性斜面堆積物の性質と基盤岩質の関係についての予察的研究	67 33-34
新広島空港の開港に伴う現広島空港の存続問題	67 19-26
北部九州における新空港建設問題 — 九州国際空港構想と新福岡空港構想を巡って —	70 27-36
士別屯田兵村について	37 16-25
胆振東部海岸地域の稻作(Ⅰ) — 鶴川町を事例として —	49 7-11
八戸の都市地域の形成様式	71 13-22
道北地方における炭田の開発 (小杉 健三と連名)	50 8-15
北海道における国内炭開発可能性調査の概要と今後の炭田開発	51 26-33
最近の炭田開発調査について	52 35-40
北海道における埋蔵炭量調査について	53 54-59
北海道石炭鉱業の現状と課題	54 15-23
北海道石炭鉱業の動向と課題	58 43-47
アイヌ語地名「陸別」	61 18-22
日本語地名「旭川」と「濁川」	62 25-30
「利別川」と「両国橋」	64 23-28
鉄道廃止による紋別地域の影響と跡地利用対策	65 47-56
北海道のアストロージング河道とその消失時期	64 15-22
志賀重昂の火口湖景観論 — 北海道の火口湖や十和田湖を例に — (要旨)	71 83-84
 〔ラ〕	
ラクシミ, T. ネパール東部, カンченジンガ自然保全地域におけるブルーシープの分布と保全 (要旨) (渡辺 悅二・大瀧 洋子と連名)	75 77
劉 大刀 北海道大学構内の沖積層表層部の堆積構造, 堆積年代および液状化 (平川 一臣・中村 有吾・研川 英征・小杉 康と連名)	74 9-14
 〔ワ〕	
若井 旭人 「全国市町村別農業データ」による農業地域の分析 (川田 一之と連名)	56 43-46
若生 達夫 上川盆地の地形面区分の予想	31・32 1-2
渡辺 悅二 あいさつに関する調査からみたネパール人ポーターと外国人トレッカーの親しみやすきの違いについて	67 41-46
大雪山国立公園, 旭日岳ロープウェイと姿見の池遊歩道の利用環境の改善の方向性 (古畑 亜紀と連名)	72 1-12

The Nangama Glacial Lake Outburst Flood Occurred on 23 June 1980 in the Kanchanjunga Area, Eastern Nepal (N.R. カナール・M.P. ゴータムと連名)	72 13-20
Expected Tourism Growth in the Kanchanjunga Area, Eastern Nepal Himalaya, and Its Possible Impacts to Yak Herders and Mountain Environments:Lessons from Sagarmatha (Mount Everest) National Park (池田 菜穂と連名)	73 11-22
スイス国立公園拡大化の意義と問題点 (澤柿 教伸・平川 一臣・松岡 憲知と連名)	74 15-22
カンチエンジュンガ・ヒマールにおける岩石氷河と山岳永久凍土分布 (要旨) (石川 守・中村 直弘と連名)	75 77
ネパール東部, カンチエンジュンガ自然保全地域におけるブルーシープの分布と保全 (要旨) (大瀧 洋子・ラクシミ, ティミルシナと連名)	75 77
渡辺 英郎	
漁業収穫とその地理的基盤	36 20-25
漁業経営の転換に関する地理学的研究	37 6-15
テレビ教材を利用した地理の学習指導 (塩見 一夫・塚本 謙藏と連名)	38 10-22
北海道における水産加工業地の発展段階による区分	45 1-6
冷凍業発展の地域的要因	47 13-21
青函トンネル工事による地域変化 —北海道福島町—	51 20-25
200カイリ漁業規制と北海道の水産加工業	57 13-19
コンブ生産変動の地域的パターン	59 32-34
北海道におけるうにの生産と流通	63 17-22
北海道南部漁村における漁業仕込みの考察	67 27-32
生徒の実地調査による都市研究2例	71 61-64
道南の歴史的風土 (巡査報告) (奥平 忠志・貞方 昇・奥平 理と連名)	71 87-89
割石 敏昭	
登別温泉の形成過程と集落構造 (酒井 多加志と連名)	68 35-40

事項別索引

著者名	題目	号	頁
●地図学			
森 壽美衛	北海道の5万分1地形図(要旨)	13	1-3
羽田野 正 隆	北海道庁の地形図に関する資料	52	54-56
野 川 潔	北海道20万分の1土地分類図について	52	57-58
水見山 幸 夫	英國ダーナム州における土地利用 —その定量的解析について—	56	33-39
———	北海道内2万5千分の1土地利用図の解析(第1報)	57	1-7
水見山 幸 夫	北海道2万5千分の1土地利用図の解析(第2報)	58	24-28
金 光 保			
藤 弘 享			
中 村 康 子	地理情報システム(GIS)の特徴とその活用 —主題図作成メニューの紹介を通して—	69	21-38
水見山 幸 夫	2020年代のわが国 土地利用概況の予測(要旨)	71	75-76
●地形			
佐 藤 慶 二	富士見爆裂火口	2	3-4
———	有珠昭和新山に就いて	5	1-4
奈良部 理	天北地方海岸原野の地形と土地利用(要旨)	11・12	5-6
岡 本 次 郎	小樽市朝里川の段丘と扇状地(要旨)	11・12	8
森 壽美衛	五島の地形(要旨)	11・12	8
佐 藤 慶 二	丸山に就いて	21	5-7
若 生 達 夫	上川盆地の地形面区分の予想	31・32	1-2
野 川 潔	北海道東部海岸地域の地形学的研究 —第1報、根室半島の地形	34	1-9
———	根室半島における二、三の気候地形	37	26-30
伊 藤 久 雄	右左府盆地の段丘地形と堆積物	39	8-12
小 杉 健 三	北海道沿岸の風成砂の粒度組成について	40	1-10
———	北海道における周氷河地形の研究(I)	47	35-40
守 屋 以智雄	日本の第四紀火山の地形発達史	48	1-7
小 杉 健 三	士別市付近の地形と土地利用	49	12-18
瀬 川 秀 良	北海道熊石町・大成町付近の海岸段丘とその14C年代	49	1-6
浜 本 武 司	北十勝瓜幕扇状地の形成過程	51	8-12
大 内 定	北海道日高地方沿岸東部の段丘形成史	52	1-8
大 場 与志男	羊蹄山山麓の陥没孔	52	9-14
守 屋 以智雄			
今 井 敏 信	New Zealand 南島 Canterbury 平野の地形について	53	40-46
瀬 川 秀 良	亀田半島東岸中部の海岸段丘と麓背面	59	1-5
堀 淳 一	北ドイツの差別侵食地形 2景(海外紀行)	59	35-43
斎 藤 享 治	扇状地事始	59	44-45
———	日本の山地の発達と扇状地	60	1-6
佐々木 畿	アイスランバートと浜堤	60	7-13
貞 方 昇	インド・マラバール海岸カナラ地方の地形と表層地質	61	1-8

大 丸 裕 武	北海道北部風蓮・劍淵地域の段丘堆積物の ¹⁴ C 年代と花粉資料	63	1 - 8
五十嵐 八枝子			
中 村 俊 夫			
平 松 和 彦			
宮 城 豊 彦			
斎 藤 享 治	台湾島の山地の発達段階	63	9 - 16
米 地 文 夫	北海道のアナストモージング河道とその消失時期	64	15 - 22
花 岡 正 光	渡島半島南部の完新世火山灰層序 —とくに駒ヶ岳火山灰 e 層 (Ko-e) の対比について—	66	13 - 18
佐々木 異	Sediment Transport accompanied by the Shoreward Movement of Lake Ice	66	1 - 6
山 本 憲志郎	最終氷期における数量的データからみたトマムの斜面堆積物の運搬能力の変化	66	7 - 12
	日高山脈北部における周氷河性斜面堆積物の性質と基盤岩質の関係についての予察的研究	67	33 - 34
山 田 周 二	札幌近郊、定山渓周辺の山地における斜面の縦断面形と土層構造	67	35 - 38
倉 茂 好 匠	山地小流域河川における河川床堆積物表面微粒構造の経時変化	68	15 - 20
青 木 かおり	東北日本沖の北西太平洋深海底に分布する火山灰の同定 (要旨)	71	70 - 71
鈴 木 正 章	後志利別川低地の沖積層 (要旨)	71	85 - 86
高 橋 伸 幸	大雪山高根ヶ原における湿地形成 (要旨)	73	100 - 101
大 内 定	豊平川中流域の河岸段丘 —支流段丘および背後山麓斜面との関係を中心について— (要旨)	73	101 - 102
曾 根 敏 雄	別海町ケネヤウシュベツ川沿いのアースハンモック	73	1 - 10
原 田 鉱一郎			
田 中 静 幸			
大 谷 武 史	北海道後志地方沿岸の波食棚について	73	57 - 68
平 川 一 臣	トッタベツ川上流における最終氷期の堆積段丘に関する火山灰編年学的資料	73	79 - 84
岩 崎 正 吾			
中 村 有 吾	大雪山主稜線付近に分布する完新世テフラ —同定と高山環境変動の問題検討へ— の意義—	73	85 - 92
片 山 美 紀			
平 川 一 臣			
石 川 守			
平 川 一 臣	北海道大学構内の沖積層表層部の堆積構造、堆積年代および液状化	74	9 - 14
中 村 有 吾			
研 川 英 征			
小 杉 康			
劉 大 刀			
大 谷 武 史	北海道後志地方沿岸の地形的特性について (要旨)	74	29 - 30
石 川 守	カンチエンジュンガ・ヒマールにおける岩石氷河と山岳永久凍土分布 (要旨)	75	77
渡 辺 梓 二			
中 村 直 弘			
宮 内 盛 一	オホーツク海に流入する河川の特性について (要旨)	75	78
佐々木 異			
●気 候			
柳 木 義 正	北海道の寒さと積雪 (要旨)	11 • 12	7 - 8
奈 良 部 理	北海道の気候変化	29	1 - 2
斎 藤 博 英	北海道における天気の変動 (特別講演要旨)	34	10
沼 田 武	札幌市における晴天率資料 (要旨)	45	14
栗 井 秀 和	札幌市における冬季間の気温分布についての一考察	47	41 - 44

藤 井 享	北海道におけるオホーツク海高気圧影響下の気候について —'83年夏季の低温と冷害	58	9-15
岩 崎 一 孝	西高東低気圧配置下の北海道の降水量分布 (第1報)	67	39-40
藤 井 享	北海道における1993年夏季の低温と冷害について	68	21-28
羽田野 正 隆	「気温図表」からみた日本列島の特性 —その1—	69	1-12
岩 崎 一 孝			
岩 崎 一 孝	地理情報システムによる気候データの解析 —北海道積雪深データを例として—	69	39-48
橋 本 雄 一			
大 川 隆	北海道のヤマセ (要旨)	73	99
●災害・公害			
小野寺 弘 道	昭和56年8月豪雨による日高地方の崖崩れの災害について	56	1-6
木 村 栄ノ進	「豊浜トンネル」崩落事故現場を見る (紹介)	70	37-42
渡 辺 慎 二	The Nangama Glacial Lake Outburst Flood Occurred on 23 June 1980 in the Kanchanjunga Area, Eastern Nepal	72	13-20
N.R. カナール			
M.P. ゴータム			
山 下 克 彦	十勝沖地震津波の宮城県中部海岸への影響	41	16-19
●その他の自然地理学			
佐 々 保 雄	空中写真の地学における利用 (要旨)	11・12	1-2
藤 波 孝 成	雨竜沼	25	1-3
	北海道の雨竜沼湿原	31・32	3-4
阿由葉 元	群馬県大間間扇状地の地下水について (要旨)	45	15
鳥 居 栄一郎	北海道における地下水の研究史	52	31-34
佐 々 保 雄	北海道と樺太との地学的関連 —その1—	55	1-7
鳥 居 栄一郎	天北地域の地質構造について	55	8-16
曾 根 敏 雄	石狩浜における大地電気比抵抗探査	65	57-58
高 橋 伸 幸			
北 原 智 之			
高 橋 伸 幸	凍土の融解期における大雪山白雲岳火口湖の消滅	69	49-56
佐々木 異	アラスカ州ハーディング湖における湖氷移動 (要旨)	71	70
●地 誌			
棚瀬 善一	統十勝開拓地理 (要旨)	11・12	5
木 村 司	夕張市の地勢	16	3-5
森 壽美衛	千歳町の地域性	18	1-4
亀 田 一 雄	夕張郷土新誌	21	1-4
沼 田 武	苫小牧市の地域性	27	3
柏 村 一 郎	豊平川沿岸ミスマイ地域の調査	28	3-4
	知床半島調査の概報	30	1-4
伊 藤 久 雄	北海道の離島漁村 厚岸小島	42	12-16
	奥尻島の漁村	43	15-19
柏 村 一 郎	東南アジアの印象 (海外紀行)	50	37-39
森 壽美衛	南空知山地	6・7	5-8
黒 沢 恵美子	アラン諸島の自然と文化 (海外紀行)	65	59-67
土 井 時 久	ネパール・バングラデシュの農村 (紀行)	73	93-98
森 壽美衛	北海道風景の特色	8	1-4
●農林水産業			
森 壽美衛	安平台の耕作景観	2	1-2
佐 藤 清 美	アスパラガスについての研究 (第1報)	9・10	1-2

井 黒 弥太郎	石狩平野の開拓（要旨）	11・12	6-7
佐 藤 清 美	アスパラガスについての研究（第2報）	15	1-3
沼 田 武	有珠湾の海苔養殖	16	1-2
佐 藤 清 美	羊蹄山付近の土地利用	19	1-6
山 川 勉	月寒台地の農作物分布とその立地条件	23	1-10
千 田 浩 史	牛の地理	26	1-9
光 岡 浩 二	岡山県における酪農の史的展開	27	3
森 壽美衛	夕張市の土地利用景観	27	3-4
奈良部 理	児島湾の開拓（要旨）	28	1-2
岡 本 次 郎	米作限界地の土地利用 -美深町における水田の畠地還元について（要旨）	28	3
	美深町水田の畠地還元について（第2報）	30	5-7
伊 藤 久 雄	根室地方の水産業	33	1-7
	北海道離島漁村の地理学的研究 -第1報-	35	1-4
渡 辺 英 郎	漁業収穫とその地理的基盤	36	20-25
疋 田 武	開拓農業の一考察 -千歳市域を中心として	36	7-10
渡 辺 英 郎	漁業経営の転換に関する地理学的研究	37	6-15
柏 村 一 郎	空知地方の農地利用の変化	38	5-9
武 石 文 人	十勝地方における農業協業経営の地理学的考察	39	22
	根釧パイロットファームの現況	40	24-30
伊 藤 久 雄	昭和初年における国後・択捉島及び色丹島の水産業	41	1-8
古 川 史 郎	コロラド州東北部における甜菜栽培	41	9-15
神 山 健	北海道農牧業地域の分類	42	1-11
進 藤 賢 一	北海道における農村立地工業の産地形成に及ぼした影響について -アスパラガス-	43	1-8
	農産缶詰資本と契約農民との対応（要旨）	43	20
内 田 実	北海道酪農の発展過程	44	12
渡 辺 英 郎	北海道における水産加工業地の発展段階による区分	45	1-6
内 田 実	千葉県酪農と安房の酪農構造	45	7-13
	富良野盆地の酪農について	46	23
渡 辺 英 郎	冷凍業発展の地域的要因	47	13-21
進 藤 賢 一	北海道における農地移動の研究(I)	47	1-8
丹 治 輝 一	戦前における道南いか釣業の発展形態	47	22-29
柏 村 一 郎	美唄を中心とした米の作付調整	47	9-12
今 井 敏 信	北海道における特殊農産物の生産と流通	48	19-25
進 藤 賢 一	北海道のインテグレーション問題	48	26-40
山 本 博 信	胆振東部海岸地域の稻作(I) -鶴川町を事例として-	49	7-11
進 藤 賢 一	十勝農業における法人化問題	50	16-21
	日高地方における軽種馬の生産構造	51	13-19
土 井 時 久	農業技術革新の普及規定要因に関する正準相関分析 -大正期蘭、一代交雑種の事例-	51	34-37
羽田野 正 隆	石狩高岡台地における土地利用とその変化	52	15-20
谷 内 達			
進 藤 賢 一	北後志の果樹生産と流通について	52	21-30
内 田 実	カリフォルニアの稻作農業	52	41-49
進 藤 賢 一	軽種馬産地帯の農業経営と土地利用の変化 -減速経済への移行期を中心に浦河、静内を事例として-	54	1-14
小松原 尚	ジャージー牛地域の現状と課題 -山高原・川上村の事例分析-	55	17-23

進 藤 賢一	零細生産力地帯の農業実態 —洞爺村を事例として—	56	16-26
土 井 時 久	産織拡大に伴う栽培技術進歩の地域性	56	27-32
里 見 清 孝	「農業集落カード」による北海道の農業集落の類型分析	56	40-42
文 仙 敏 宏			
若 井 旭 人	「全国市町村別農業データ」による農業地域の分析	56	43-46
川 田 一 之			
今 井 敏 信	北海道浦河町における農業的土地利用の変化 —1971~1981—	56	7-15
大 脇 演 幸			
渡 辺 英 郎	200カイリ漁業規制と北海道の水産加工業	57	13-19
小 松 原 尚	根釧地域におけるジャージー牛飼養の事例分析	57	26-32
岡 本 次 郎	市町村別データと旧市町村別データによる作物結合型の対比 —東北地方を例として—	58	35-37
大 場 稔			
竹 森 茂 雄			
岡 本 次 郎	「集落カード」の分析にあたっての問題点 —第二種兼業農家率を例として—	58	38-42
小 川 邦 彦			
松 田 聰			
渡 辺 英 郎	コンブ生産変動の地域的パターン	59	32-34
進 藤 賢一	土地生産性向上のための輪作、土地づくり —富良野地区を事例として—	59	6-17
	牛肉流通の新しい局面 —大規模畜産基地、北海道—	60	14-26
今 井 敏 信	カナダにおける農業的土地利用の地域的変化	61	9-17
渡 辺 英 郎	北海道におけるうにの生産と流通	63	17-22
今 井 敏 信	カナダの Prairies における農業的土地利用について	64	1-14
内 田 実	北海道農業の空間構造	65	1-14
黒 沢 恵美子			
竹 生 かおり			
辻 本 ゆかり			
久 末 洋 子			
今 井 敏 信	北海道浦河町における農業的土地利用の変化(3)	65	15-26
大 脇 演 幸			
渡 辺 英 郎	北海道南部漁村における漁業仕込みの考察	67	27-32
今 井 敏 信	北海道における相対的土地生産性について	68	1-6
寺 田 稔	日本における花き栽培の現状と類型区分	70	1-12
土 井 時 久	ネパールへの肥料援助とカトマンズ盆地における農業の変化	71	1-12
近 藤 巧			
長 南 史 男			
XIAO Ping (肖平)	The Cultivated Land Change and its Impacts on Grain Production in China	71	23-32
土 井 時 久	ネパール・カトマンズ盆地農業の変化 (要旨)	71	69
	ネパールにおける農業開発援助と農業の現状 (要旨)	71	74
竹 下 紀 子	Sedimentary Structure of Debris in Hollow Deposited during Selective Logging	72	21-28
倉 茂 好 匠			
平 川 一 臣			
土 井 時 久	ネパール・ジャナクプル地域の灌漑開発援助と農業の変化 (要旨)	72	57
近 藤 巧			
長 南 史 男			
寺 田 稔	北海道の中山間農業地域について (要旨)	74	30-31

土 井 時 久	ネパールにおける乾季畑作と灌漑 (要旨)	74	32
長 南 史 男			
近 藤 巧			
●鉱 工 業			
藤 島 範 孝	北海道の中小炭鉱合理化について	36	11-19
土 屋 貢	栗山町における工業立地の諸問題 (要旨)	44	2-5
伊 藤 久 雄	野幌の窯業	47	30-34
小 杉 健 三	道北地方における炭田の開発	50	8-15
横 平 弘			
横 平 弘	北海道における国内炭開発可能性調査の概要と今後の炭田開発	51	26-33
	最近の炭田開発調査について	52	35-40
	北海道における埋蔵炭量調査について	53	54-59
	北海道石炭鉱業の現状と課題	54	15-23
原 田 実	北海道の機械工業の構造特性に関する一考察	58	16-23
横 平 弘	北海道石炭鉱業の動向と課題	58	43-47
山 下 克 彦	最近10年間の道内における機械四業種の立地動向	60	45-46
菊 地 達 夫	北海道における食品工業の成立要因 一明治期における官営工場の立地を手がかりに一	70	13-20
●人 口			
谷 内 達	北海道の人口増加をめぐる国際比較	52	50-53
東 廉	札幌市における人口密度分布とその変化	53	7-13
HUMPHRYS, G.	Population Loss in Northern Japan: The Experience of Hokkaido in the 1980s	64	41-50
●集落および都市			
柏 村 一 郎	市街地と農村部落の人口増減 一美幌町の場合一	1	4
富 田 芳 郎	台湾の集落 (要旨)	11・12	3-4
東 谷 清 次	北海道農村社会構造 一集落地理学へのアプローチ (要旨)	11・12	6
沼 田 武	門前町成田と池上の商店街 (要旨)	14	1-2
内 田 淳 一	北海道の屯田兵制度 一沿革と土地制度一	17	1-5
井 黒 弥太郎	札幌市大谷地原野の開拓 一石狩平野の一サンプル	20	1-8
	天塩の開拓	27	1-2
岡 本 次 郎	上川水田の発展における屯田兵制度の意義	31・32	12-13
伊 藤 久 雄	水産都市としての根室の性格	31・32	5-12
山 本 博 信	士別屯田兵村について	37	16-25
安 田 高 明	市街地発展に関する考察 一札幌市北光地区一	41	27-32
塙 見 一 夫			
内 田 実	石狩川中下流域における集落立地について (要旨)	43	22-23
小 川 博 三	スペイン集落の諸形態について (要旨)	43	23
岩 瀬 正 人	千歳川の特質と開発への課題 一道央メガロポリスにおける市の分担すべき機能を中心として一 (要旨)	44	1
帰 山 次 正	苫小牧市と工業港 (要旨)	44	5-7
木 村 浩			
折 笠 義 之			
恩 田 德 生	地方都市としての滝川 (要旨)	44	7-9
千 田 浩 史	石狩町における漁村の現状 (要旨)	45	14
奥 平 忠 志	港湾都市を中心とする諸問題 (要旨)	46	14
	港湾都市についての若干の問題 一いわき市を例として一 (要旨)	46	15
小笠原 政 一	今後の釧路市の都市計画について (要旨)	46	19

伊藤 久雄	野幌屯田兵村地域の変容 一札幌としての住宅地化一	46	8
奥平 忠志	都市的土地利用と地価の関係について 一函館と苫小牧の場合一	50	22-26
羽田野 正隆	帯広市を中心とした人口移動の分析 一グラビィ・モデルの適用をめぐって一	53	14-18
奥平 忠志	オーストラリアの首都キャンベラの都市化	53	47-53
鈴木 邦輝	天塩川流域のコタンの分布 一19世紀の文献資料から一	58	30-34
沼田 武	建物業種からみた薄野の地域構造	59	27-31
大渕 玄一	洞爺湖温泉の紹介	6 • 7	1-2
小林 和夫	コタンとその立地	62	7-18
石倉 大輔	道央圏における広島町の将来展望	64	29-36
横平 弘	鉄道廃止による紋別地域の影響と跡地利用対策	65	47-56
COLEMAN, A.	Design Disadvatagement in Housing	66	25-32
酒井 多加志	釧路港の拡大と後背地の拡大	67	13-18
奥平 忠志	地価高騰とマンション建設 一函館の事例一	67	7-12
割石 敏昭	登別温泉の形成過程と集落構造	68	35-40
酒井 多加志			
寺谷 亮司	わが国における支店の集積 一都道府県および県庁所在都市の分析一	69	13-20
横尾 実	八戸の都市地域の形成様式	71	13-22
高橋 徹	ニュータウン開発による混住化の特性 一佐倉市ユーカリが丘を事例にして一	71	43-54
氷見山 幸夫	1930年代以降の中国東北部の土地利用変化概況(要旨)	71	69
奥平 理	函館市における旅館・ホテルの立地と近年の変容 一湯の川温泉街の事例一(要旨)	71	73
酒井 多加志	北海道東部における港湾および港湾背後圏の特性について(要旨)	71	78-79
高橋 徹	ニュータウン開発による混住化の特性 一佐倉市ユーカリが丘を事例として一(要旨)	72	58
羽田野 正隆	十勝圏の人口移動と地域分化 一1980年以降を中心に一(要旨)	74	31
橋本 雄一			
川村 真也	GISを用いた都市社会環境の分析(要旨)	75	80
●商業・流通・交通			
恩田 徳生	北海道における商業圏について	35	5-10
藤島範孝	中小都市における中心商店街の変移 一岩見沢市を例として一(要旨)	43	20-21
村田 博	交通事故分布の地域性(要旨)	43	21
伊藤 久雄	山村占冠の開拓と交通路(要旨)	43	21-22
藤島範孝	中小都市における中心商店街の変移 一岩見沢市におけるRetail Shopを例として一	43	9-14
高平順夫	苫小牧港の近況	44	12-13
山崎幹雄	釧路港の現状と課題(要旨)	46	15-18
谷内 達	北海道における交通圏の推移と都市システムの形成、1887年~1935年	53	1-6
	北海道の港湾分布における集中・分散、1888年~1935年	54	46-52
奥井 正俊	交通網構造の地域差に関する一考察	57	8-12
沼田 武	札幌市における中心商店街の構成(1)	60	27-32
山下克彦	道内におけるスクール・バス導入地域の特性	60	43-44
根田克彦	北海道における商圏構造	62	1-6
奥平 理	福岡市における卸売事業所の立地変動	65	35-46
武田 泉	国鉄改革で北海道鉄道事業はいかに変化したのか 一改革5周年を迎えて一	67	47-56
酒井 多加志	韓国ソウルの都市交通の特性	68	7-14
山本 耕三	北部九州における新空港建設問題 一九州国際空港構想と新福岡空港構想を巡って一	70	27-36

初 沢 敏 生	東京ファッショングループの生産構造 (要旨)	71	74-75
	北海道におけるブティックの特徴 一流通・生産構造を中心としてー (要旨)	72	57-58
荒 木 一 視	生鮮野菜輸入の地域構造とフードシステム (要旨)	72	59-60
北 田 晃 司	植民地時代の朝鮮における鉄道網の発達と都市システムの変遷	73	23-38
稻 益 寛	札幌市における商業構造の変容 一類型化における分析手法の検討を中心としてー	73	39-56
高 橋 徹	コンビニエンスストアの物流システム 一北海道に進出している4大チェーンの物流システムについてー (要旨)	73	99-100
百瀬 裕水	長野都市圏における交通体系の変化と課題 (要旨)	75	79
●地域開発			
山 崎 長 吉	総合開発について	4	1-8
恩 田 徳 生	新産業都市建設をめぐる道央地域の開発問題	36	1-6
山 下 克 彦	過疎地域研究の一視点	48	41-44
	行政区域と広域圈計画の関連について	50	1-7
	道央地域における住宅造成の研究	51	1-7
渡 辺 英 郎	青函トンネル工事による地域変化 一北海道福島町ー	51	20-25
山 下 克 彦	戦前の苦小牧における港湾計画の変遷	53	19-26
	苦小牧地区開発史年表: 1950~70	54	53-73
藤 島 範 孝	稚内市経済社会長期計画の概要	55	24-27
HATANO, M.	A Colonial Land Division Plan in Hokkaido	56	47-49
山 下 克 彦	北海道における農業公共投資の地域的配分について	58	1-8
	北海道産業の諸問題 ー1983年春季大会シンポジウムー	58	48-50
	公共投資と地域経済 ー新酪農村建設事業を例としてー	59	18-26
小松原 尚	農業地域と過疎問題	66	19-24
	農山村における「地域活性化」の現状と課題 ー北海道羊蹄山麓地域を事例としてー	67	1-6
山 本 耕 三	新広島空港の開港に伴う現広島空港の存続問題	67	19-26
GRADUS, Y.	「砂漠の開発と砂漠化」	70	43-50
相 原 正 義	流況調整河川の水議論 (要旨)	71	76-77
菊 地 達 夫	石狩湾新港地域における地域開発の変遷について ー明治期から昭和初期までを中心としてー (要旨)	71	78
山 下 克 彦	産炭地振興計画の地域的特性と問題点 ー北海道空知地区の旧産炭地を事例としてー (要旨)	71	79-80
●文化地理			
田 中 秀 作	フロンティアとしての北海道と米国	1	3-4
森 壽美衛	北海道の地名	22	1-5
	支笏洞爺国立公園	24	1-18
小 川 博 三	満州における交通拠点地名について	39	1-7
	アングロアメリカにおける交通拠点地名について	40	11-23
藤 島 範 孝	北海道の地形分類(I)和名について	46	1-7
	北海道の地名と地形の関連について	46	24-25
小 林 和 夫	松浦武四郎の石狩川調査	53	27-39
	チャシの分布に対するチャシ地名からの接近	54	24-45
朽 木 義 正	「北海道地名索引」について (紹介・書評)	55	35-36
谷 内 達	外国の百科事典における北海道の記述	56	50-53
永 幡 豊	北海道における神社の分布について	57	20-25
横 平 弘	アイヌ語地名「陸別」	61	18-22

横 平 弘	日本語地名「旭川」と「濁川」 「利別川」と「両国橋」	62 64	25-30 23-28
平 井 松 午	明治初期静内郡絵図に関する若干の考察	65	27-34
羽田野 正 隆			
渡 辺 悅 二	あいさつに関する調査からみたネパール人ポーターと外国人トレッカーの親しみ やすさの違いについて	67	41-46
寺 田 稔	北海道における診療費の市町村別分布からみた地域特性（要旨）	71	81-82
米 地 文 夫	志賀重昂の火口湖景観論－北海道の火口湖や十和田湖を例に－（要旨）	71	83-84
羽田野 正 隆	『米欧回覧実記』に現れた2つの近代語について	72	39-42
寺 田 稔	北海道の農業地域における生活環境と地域の活性化（要旨）	75	81
●地理教育			
榎 本 昌 一	地理学習指導の中心的问题点－略図中心の授業展開－	29	2-4
大 森 好 男	高校地理における統計学習について	37	1-5
塩 見 一 夫	テレビ教材を利用した地理の学習指導	38	10-22
塚 本 謙 藏			
渡 辺 英 郎			
信 田 貢	近郊地域をどうとらえるか－伊達を中心として－	41	20-26
藤 島 範 孝	北海道の地名分類(5)－海岸周辺地名－	48	8-18
沼 田 武	北海道高校の地理教育研究会の動き	49	19-21
関 口 淳	高校地理Bの隘路	49	22-26
尾 崎 功	中学校における読図指導－とくに大縮尺の地形図について－ 中学校における地図指導の実践	49 50	27-28 27-36
田 村 正 郎	地図と地理教育	55	28
沼 田 武	地形指導と資料図	55	29-34
小 松 原 尚	社会科の総合性と地図の構成	61	23-27
奥 本 繁	「身近な地域」の教材構成に関する研究	62	19-24
HUMPHRYS, G.	Recent Changes in British School Geography (記念講演)	64	51-61
飯 田 精 一	中学校における選択履修の幅の拡大に対応する指導の在り方	68	41-46
奥 平 理	「地理B」指導方法の考察	68	47-54
武 田 泉	学校教育における野外活動の現状と環境教育の理念－北海道と青森県の事例－	69	57-66
後 藤 忠 志			
渡 辺 英 郎	生徒の実地調査による都市研究2例(紹介)	71	61-64
深 見 亘	地理教育におけるインターネット利用(要旨)	71	82-83
菊 地 達 夫	スキー修学旅行を通しての環境教育的な地域学習－長野県志賀高原一ノ瀬スキーキー場の事例を中心として－	72	43-52
	課外活動を通じての環境教育の展開(要旨)	73	100
佐久間 直 樹	新学習指導要領「地理B」における「系統地理的な視点」について	74	23-27
谷 川 尚 哉	新学習指導要領の批判的検討(要旨)	74	31
菊 地 達 夫	地域認識を体得するための巡査とその実施形態(要旨)	74	33
武 田 泉			
●観 光			
武 田 泉	キロロリゾート開発の始動と2年目の課題	67	57-60
	エコツーリズムの概念とその応用－公共交通優先政策との関連を視座に入れて－	68	29-34
北 田 晃 司	韓国における観光地理学研究の動向	70	21-26
菊 地 達 夫	本州との比較からみた北海道のレクリエーションスキーの特色とその地域性	71	33-42
小松原 尚	北海道における「主要観光地」の類型化(要旨)	71	71-72

菊地 達夫	ファッショニ性を有する都市型スキー場の経営戦略 ースノクールオーンズスキーエー場を中心としてー (要旨)	72	58-59
小松 原尚	釧路湿原地域における観光拠点利用パターン (要旨)	72	60-61
菊地 達夫	北海道におけるスキー場の立地特性	73	69-78
	道内居住者に見るスキー場の選択条件	74	3-7
渡辺 悅二	スイス国立公園拡大化の意義と問題点	74	15-22
澤柿 教伸			
平川 一臣			
松岡 憲知			
●環境			
長谷川 武	知床国立公園内の100m ² 運動と国有林伐採計画について	61	28-35
永幡 豊			
武田 泉	大雪山国立公園における自然環境の保全・管理の適性化 (第6報) ー指定60周年記念を迎えた大雪山国立公園をめぐる今日の社会情勢ー (要旨)	71	84-85
渡辺 悅二	大雪山国立公園、旭日岳ロープウェイと姿見の池遊歩道の利用環境の改善の方向性	72	1-12
古畑 亜紀			
深澤 京子	大雪山国立公園高原温泉におけるマイカー規制についての意識調査	72	29-38
渡辺 悅二	Expected Tourism Growth in the Kanchanjunga Area, Eastern Nepal Himalaya, and Its Possible Impacts to Yak Herders and Mountain Environments: Lessons from Sagarmatha (Mount Everest) National Park	73	11-22
池田 菜穂			
辻井 達一	基調講演: 北海道の自然と自然保護 ー湿地を事例としてー (シンポジウム)	75	3-15
金晃太郎	北海道の環境 (シンポジウム報告)	75	17-26
小野 有五	北海道の環境問題と地理学の役割 (シンポジウム報告)	75	27-31
氷見山 幸夫	地図で環境を考える (シンポジウム報告)	75	32-40
藤田 郁男	学校教育における環境問題の学習と指導 ーその問題と課題ー (シンポジウム報告)	75	41-50
渡辺 悅二	ネパール東部、カンチエンジュンガ自然保全地域におけるブルーシープの分布と保全 (要旨)	75	77
大瀧 洋子			
ラクシミ, T.			
●その他			
森壽美衛	北海道関係地理学参考文献 ー地理学評論、地理雑誌、地理学地理教育、地質学雑誌、科学ー	3	1-4
柏村 一郎	日本地理学会1961年度春季大会報告	33	8
野川 潔	日本地理学会1962年度春季大会報告	33	9
沢田 準一	札幌地理研究会の歩み ー大正13年より昭和16年までー	38	1-4
宮崎 芳男			
山本 慶太郎			
佐々保雄	北海道鳥瞰(I) (要旨)	43	23-24
	日本海岸線鳥瞰 (要旨)	45	16
柏村 一郎	伊藤久雄先生の急逝を悼む (紙碑)	49	31-32
	山本博信学兄の逝去を悼む (紙碑)	52	59
浜森辰雄	稚内市の現況と将来 (特別寄稿)	55	37
山下克彦	雲南省紀行 ーシーサンパンナと少数民族ー (海外紀行)	56	54-60
岡本次郎	地理学における電算機利用の展望	57	33-35
沼田 武	広田芳男君の逝去を悼む (紙碑)	58	51
堀淳一	雨と古蹟のドラムリン ーアイスランドの旅・抄ー (海外紀行)	60	33-42
岩崎 一孝	橋爪若子: オーストラリア入門 (書評)	60	47

大 内 定	郷土と科学編集委員会：続北海道5万年史（書評）	60	48
柏 村 一 郎	札幌地理サークル編：ウォッチング札幌（紹介・書評）	61	42
堀 淳 一	水上住居をたずねて —アイスランド・クラゴーノーウェン訪問記—（海外紀行）	62	31-36
進 藤 賢 一	坂本 英夫：農業地理学（紹介・書評）	62	37
山 下 克 彦	角川地名大辞典編纂委員会編：北海道上・下巻（紹介・書評）	62	38
堀 淳 一	グレンコラムキル周遊記（海外紀行）	63	23-30
野 川 潔	斎藤 享治：日本の扇状地（書評）	63	40
下 川 和 夫	南極紀行（海外紀行）	64	37-40
大 内 定	人類とエネルギー研究会編：地球環境と人間 —環境の保全と成長の持続は可能か—（書評）	64	62
澤 田 芳 一	故宮崎芳男先生の生涯（紙碑）	64	63
小松原 尚	矢田俊文編著：地域構造の理論（書評）	65	68
岩 崎 一 孝	門村 浩・武内和彦・大森博雄・田村俊和：環境変動と地球砂漠化（書評）	66	33
奥 平 忠 志	本会顧問・亀谷 栄先生のご逝去を悼む（紙碑）	66	35
林 隆 治	故 筒浦 明先生を偲ぶ（紙碑）	67	61
小松原 尚	佐藤 正之著：北紀行 —変わる北海道の街と経済—（書評）	69	72
進 藤 賢 一	ワールドロペットと地理学徒（紀行）	71	55-60
岡 本 次 郎	元木 靖著：現代日本の水田開発 —開発地理学的手法の展開—（書評）	71	65-68
土 井 時 久	内田 実著：北海道農業地域論（書評）	72	53-55
山 下 克 彦	寺本 潔・井田 仁康・田部 俊充・戸井田 克巳著：地理の教え方（書評）	72	55-56
	奈良部先生を悼む（紙碑）	74	1
高 橋 伸 幸	シンポジウムの趣旨	75	1-2
佐々木 異	シンポジウムのまとめ	75	51-55
大 内 定	北海道地理学会小史	75	57-66